

14.2
1
574

14. 24-574



1200501162577

福井縣立種畜場業務功程報告書

同場編

昭和五年度



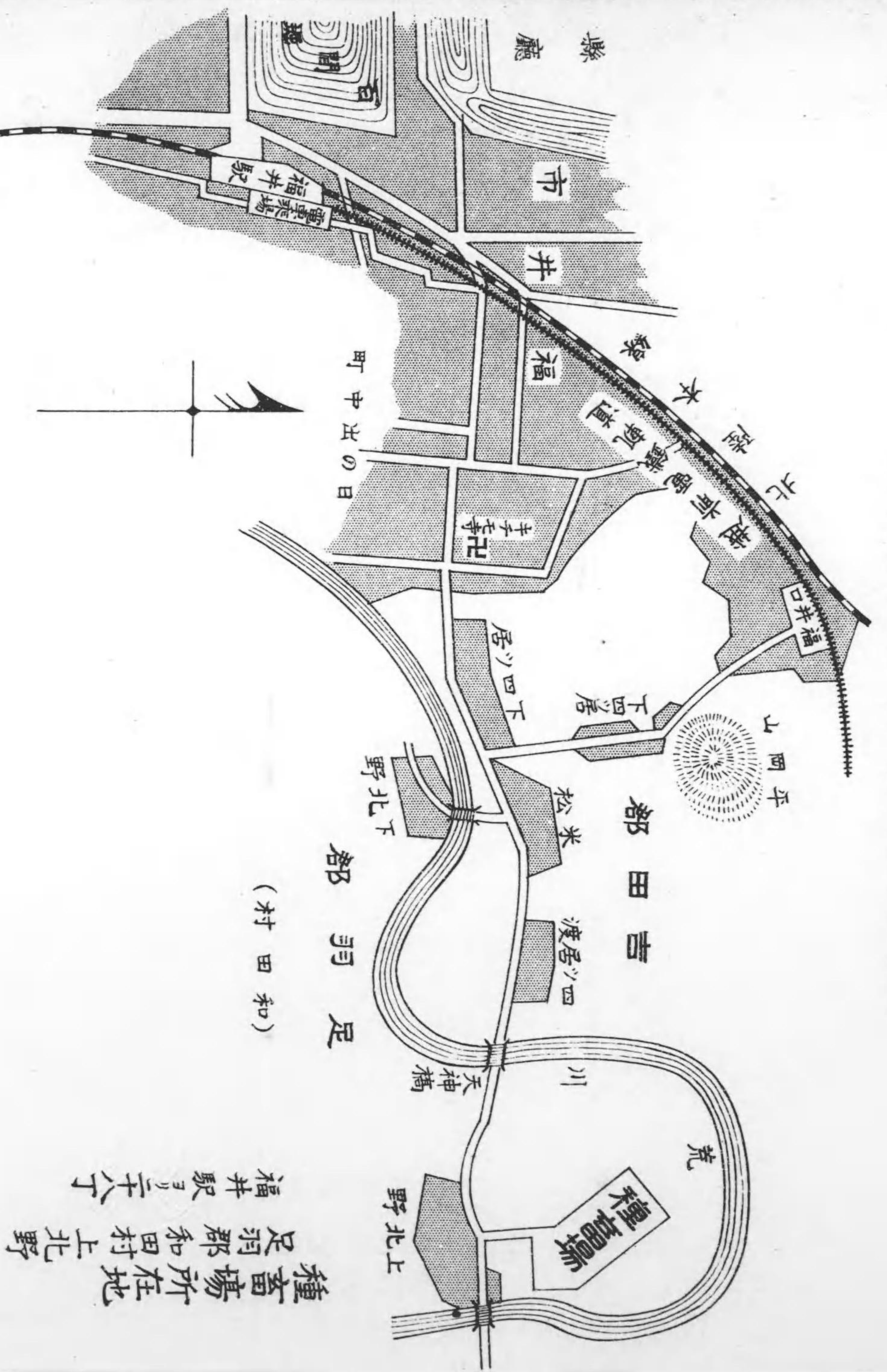
始



昭和五年度

業務功程報告書

福井縣立種畜場



種畜場富坂在取路圖

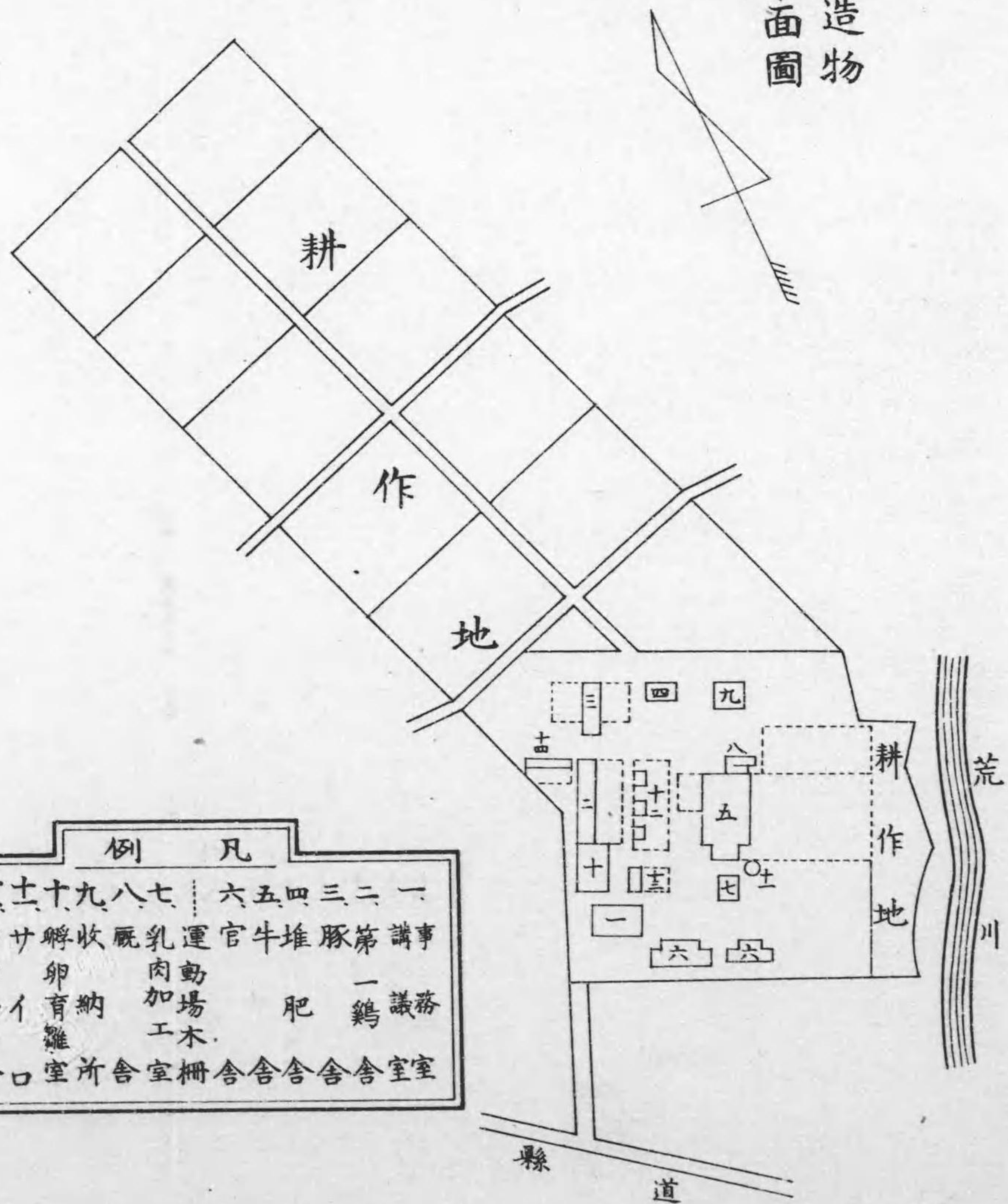
正誤表

頁	行	正	誤	頁	行	正	誤
一一三	三	生乳	産乳	三七二	二	遠敷第二	遠敷第二
一一九	九	サイインカメダツ	サイインカメダツ	三九二	二	濃厚	濃厚
一一三	三	父ロードヨヘム	父ロードヨヘム	三九三	三	二回二分與シ尙季節	二回二分與シ尙季節
一一四	四	母アーチセロ	母アーチセロ	四〇四	四	給與飼料	給與飼料
一一三	三	母第三スシ	母第三スシ	四〇三	三	飼料作物	飼料作物
一一四	四	母第三スシ	母第三スシ	四〇七	七	進抄	進抄
一一五	五	ホルスタイン	ホルスタイン	四〇九	九	四千貫	四千貫
一一五	五	ベツシューウカ	ベツシューウカ	四一〇	〇	即チ	即チ
一一七	七	曾平	勇平	四一〇	〇	オーチャードグラス	オーチャードグラス
一九四	四	配付ヲ	配付ノ	四一〇	〇	龍舌菜	龍舌菜
一九一	一	レットヂエウエル	レットヂエウエル	四一〇	〇	採種ノ目的	採種ノ目的
一九一	一	福井縣	福井縣	四一〇	〇	西瓜等各播種	西瓜等各播種
二〇八	八	母	母	四一〇	〇	全	全
二〇三	三	逐年	逐年	四一〇	〇	第二十八サージョ	第二十八サージョ
三〇一	一	單冠白色レク	單冠白色レク	四一〇	〇	ハナビーターヂエ	ハナビーターヂエ
三〇一	一	種	種	四一〇	〇	マシーデス號	マシーデス號
三〇九	九	白色レクホーン	白色レクホーン	四一〇	〇	インカサーダツチ	インカサーダツチ
三〇九	九	種	種	四一〇	〇	ランドアーチス號	ランドアーチス號
三〇六	六	拔雄及發育	技雄及發育	四一〇	〇		
三〇六	六	最後	再後	四一〇	〇		

種畜場所在地

足羽郡和野村上北野
福井駅ヨリ二八丁

種畜場營造物
及耕作地平面圖



例 凡									
十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
畜	口	卵	收	乳	運	官	牛	堆	豚
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
二	二	一	納	加	場	肥	第	講	務
育	育	雞	所	工	木	舍	舍	舍	室
舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	室

正誤表

國語訳術辞書



14-21-574

昭和五年度福井縣立種畜場業務功程報告書目次

第一章 總說

一、沿革	一
二、位置	二
三、用地	二
四、氣象	二
五、營造物象	三
六、經營費	四
七、事業ノ概況	七
八、事務ノ概況	八
イ、職員	八
ロ、備員	八
ハ、職員及備員ノ異動	九
ニ、職員出張	〇
（イ）縣内	〇
（ロ）縣外	一
ホ、參觀人員	一
ヘ、質疑應答	二
ト、文書發收件數	二

第二章 種畜種禽

一、畜牛	二
イ、畜牛現在表	三
一、種牡牛	三
二、種牝牛	三
三、生産牛	三
ロ、畜牛異動表	三
ハ、種牝牛種付成績表	四
ニ、種牡牛余勢種付成績表其一	四
ホ、種牡牛余勢種付成績表其二	五
ヘ、泌乳成績表	六
ト、生産牛乳ノ處理	七
二、豚	八
イ、豚現在表	八
一、種牡豚	九
二、種牝豚	九
三、候補種豚	九
四、仔豚	〇

正誤表



- 口、種豚異動表……………二二
- ハ、種豚蕃殖成績表……………二二
- 一、種牡豚種付成績……………二三
- 二、種牝豚種付成績……………二三
- ニ、年度内生産仔豚異動表……………二三
- ホ、種豚拂下表……………二四
- ヘ、最近五ヶ年間種豚拂下比較表……………二五
- ト、仔豚發育成績表……………二六
- 三、雞……………二六
- イ、種雞現在表……………二六
- ロ、種雞拂下表……………二六
- ハ、最近五ヶ年間種雞拂下比較表……………二六
- ニ、種卵拂下表……………二七
- ホ、最近五ヶ年間種卵拂下比較表……………二七
- ヘ、人工孵化成績表……………二七
- ト、産卵調査表……………二七
- チ、最近五ヶ年間産卵成績比較表……………二八
- リ、最近四ヶ年間種雞種卵拂下出願數ト拂下數トノ關係……………二八
- ヌ、育雛成績概要……………二九

- ル、委託種禽育成所……………三六
- 一、委託種禽育成所事業成績……………三六
- 第二章 飼養管理……………三九
- 一、飼 養……………三九
- イ、畜牛飼料給與料及配合例……………四〇
- ロ、犢ノ育成……………四一
- ハ、種豚飼料配合例……………四一
- ニ、種雞飼料配合例……………四二
- ホ、育雛飼料配合例……………四二
- ヘ、飼料ノ購買及消費……………四三
- 二、管 理……………四三
- 第四章 乳肉加工……………四五
- 一、乳加工……………四五
- 二、肉加工……………四七
- 第五章 試驗事項……………四八
- 一、人工授精試驗……………四八
- 二、農場經營ノ概況……………五〇
- 一、飼料作物栽培ノ概況……………五〇
- イ、飼料作物栽培成績表……………五一

- 口、牧草收穫表……………五一
- ハ、農場作業使用人員月別表……………五一
- ニ、飼料作物栽培勞力調査……………五三
- 指導獎勵……………五四
- 一、質疑應答及講習講話……………五四
- 附 錄……………五五
- 福井縣立種畜場職制……………五五
- 福井縣立種畜場處務規程……………五六
- 福井縣立種畜場處務細則……………五七
- 種豚種禽種卵配付規程……………六一
- 種豚種禽種卵配付價格……………六三
- 種牡牛種付規程……………六四
- 候補種牡牛拂下規程……………六七
- 委託種禽育成所規程……………六八
- 委託種禽育成所……………七〇
- 備員心得……………七一
- 種牡牛馬表……………七三

昭和五年度福井縣立種畜場業務功程報告書

第一章 總說

一、沿革

本縣畜産ノ起原ハ文献ニ徴スヘキモノナク其由來ヲ知ル能ハスト雖氣候中和ニシテ地味豊饒加之山河ノ配置宜シキヲ得テ藪草ノ繁茂夥シキカ故ニ昔日ヨリ養畜ノ業行ハレタルヤヲ想起セシムルモノアリ明治ノ初年土産牛ノ体格矮小品位劣悪ナルヲ慨スル人士等ニヨリテ短角種及「ホルスタイン」種牝牛ノ購入ヲナシ銳意畜牛ノ改良ニ努メタリト雖ニ進一退成績ノ見ルヘキモノナクシテ徒ラニ悲境ヲ辿ルニ過キサリキ明治三十三年以來縣費ヲ以テ「ホルスタイン」種牝牛ヲ購入シテ乳用種ノ改良ニ努ムルト共ニ一面ニハ又使役ヲ專ラトスル地方ニ對シテハ在來種牛ノ特質美点ヲ尊重シテ改良増殖ヲ圖レリ

爾來幾星霜回ヲ重ネテ實驗シ乳用種牛ニアリテハ「ホルスタイン」種ヲ以テ最モ氣候風土ニ適應シ役用牛ニアリテハ改良和種ヲ其ノ用途ニ充ツルヲ以テ最モ良策ナルモノトシ愈々方針ヲ改メテ邁進セリ

養鶏養豚ニアリテハ佛教ノ盛ナル關係上飼養尠ク他府縣ニ比シ著シキ遜色アリタルモ縣當局ハ之レカ飼養ノ獎勵ニ努メタル結果漸次其數ヲ増シ數倍ノ増加ヲ算スルニ至レリ既往ノ状態ハ大略以上ノ如クナルモ時代ノ趨移ハ益乳肉卵ノ需要ヲ加ヘ併テ家畜家禽ヲ加味セル農業ハ農家經營ヲ合理化スル上ニ於テ最緊急ナル事業ナルヲ以テ之レカ範ヲ示シ實地指導ノ機關タラシムルト共ニ種畜種禽ノ配付ヲ普カラシメントシテ茲ニ常場ノ設立ヲ企圖スルニ至レリ

設立ニ要セシ經費豫算ハ之レヲ大正十一年度通常縣會ニ提出シタルニ最モ意義アル施設トシテ熱誠ナル協賛ヲ得即チ十一年度ヨリ三ヶ年繼續ヲ以テ新設スルコト、シ農商務省亦十一年三月二十四日附ヲ以テ設立ノ認

可ヲ與ヘラレタリ而シテ同年四月場長ノ任命ト共ニ仮事務所ヲ縣廳内ニ設ケ翌十二年十月事務所ノ竣功ト共ニ移轉今日ニ及ヘリ

二、位 置

縣廳及福井驛ヨリ東方約三十町ニ位シテ道路ハ縣道ニシテ極メテ平坦且ツ荒川ト稱スル河川ハ本場ヲ圍繞シ福井市ノ中央ヲ貫通スル足羽川ニ通スル等能ク舟車ノ便ヲ有セリ土地高燥豊饒ニシテ從來主トシテ蔬菜ノ栽培ヲ行ヒタル畑地ト梨園ヲ開拓シテ設置セシモノニシテ水質良好飲料ニ適ス圓山ノ丘陵ハ指顧ノ間ニ展望シ遙カニ望メハ加賀白山ノ秀嶺雲煙ノ間ニ横タハリ望涯ノ風光雄大明眉ナルノ地ナリ

三、用 地

用地ハ總面積僅カニ三町五反八畝十六歩四合ナルヲ以テ事業ノ施行上常ニ集約的ナル利用方法ヲ研究シ其ノ範ヲ示セリ而シテ用地利用ノ區分ヲ示セハ左ノ如シ

- 建 物 敷 地 一千四百六十五坪四合
- 家畜家禽舍附屬運動場 八百六十六坪
- 牧 草 栽 培 地 一町一反一畝二十七歩
- 通 路 及 耕 作 路 五百八十一坪
- 耕 作 地 一町五反一畝十七歩

四、氣 象

夏季ハ風位概テ北風又ハ南風ニシテ攝氏二十八度ヨリ三十三、四度ノ間ヲ昇降ス冬季ハ風位概テ北西ニシテ氣温ハ攝氏二度ヨリ零下四度ノ間ニアリテ初霜ハ十一月初メヨリ晚霜ハ四月上旬ニ及ヒ降雪ハ十一月下旬ナルモ積雪ニ至ラスシテ多クハ十二月又ハ一月ニ入りテ尺餘ニ及フヲ普通トセシモ本年ハ近年稀ナル薄雪ナリキ

五、營 造 物

種 類	個 數	構 造	坪 數	建 築 セ ン 年 度
牛 舍	一	木造瓦葺平屋	八二、〇〇	大正十一年度
豚 舍	一	木造亞鉛葺平屋	三二、二〇	同 十一年度
堆 肥 舍	一	木造亞鉛葺平屋	一〇、〇〇	同 十一年度
牛 運 動 場	延長百十七間	丸太造リ高サ四尺五寸	五九、〇〇	同 十一年度
豚 運 動 場	延長六十一間	板圍高サ四尺	六四、五〇	同 十一年度
井 戸	四	掘抜井戸 三一		大正十一年度ニケ 同十二年 度一ケ 同十三年度一ケ
講 務 所	一	木造瓦葺二階建	五三、〇〇	大正十二年度
講 務 所	一	木造瓦葺平屋	五五、七五	大正十二年度
雞 舍	二	木造瓦葺平屋	九七、五〇	昭和四年度
右 運 動 場	延長百五間半	金 網 張	六二、〇〇	大正十二年度
右 運 動 場	二棟四戸分	木造瓦葺平屋	二〇、〇〇	大正十三年度
第 一 育 雛 舍	一	木造瓦葺平屋	一三、五〇	大正十三年度
右 運 動 場	延長十九間半	金 網 張		大正十三年度

目	節	豫算額	決算額	
收納所	一	木造亞鉛葺二階健	二〇,〇〇	大正十三年度
厩舎	一	木造瓦葺平屋	五,〇〇	大正十三年度
乳肉加工室	一	木造亞鉛葺平屋	三,〇〇	大正十三年度
サイロ	一	コンクリート建		大正十三年度
コロニー式鶏舎	三	木造亞鉛葺平屋	九,〇〇	昭和二年度
右動場附木柵屬	延長三十六間	金網張	三,〇〇	昭和二年度
第二育雛舎	一	木造亞鉛葺平屋	八,〇〇	昭和二年度
右動場附木柵屬	延長十九間	金網張	二,〇〇	昭和二年度
牛種付料			四五,〇〇〇	二五,〇〇〇
不用品賣却代			一〇,〇〇〇	三八,〇〇〇
收穫物製作品			五,七五,〇〇〇	三,六五,七四〇

六、經費（歳入）

目	節	豫算額	決算額
計		六,二五,〇〇〇	四,二九,七四〇
俸給		五,六三,〇〇〇	五,四九〇,八七〇
技師給	技師給	一,六〇〇,〇〇〇	一,五九九,九六〇
技師給	技師給	三,五五〇,〇〇〇	三,三五六,九一〇
主事補給	主事補給	四八〇,〇〇〇	五三四,〇〇〇
雑給	技師旅費	五,三九五,〇〇〇	五,五一八,七〇〇
	技師旅費	二八五,〇〇〇	二八五,〇〇〇
	技師主事補旅費	九九八,〇〇〇	九九八,〇〇〇
	牧夫給	二,四八二,〇〇〇	二,二〇〇,四五〇
	農夫給	九四九,〇〇〇	九一九,〇〇〇
	小使給	三八五,〇〇〇	二二三,〇〇〇

（歳出）

場	雇人料	一、九五〇〇〇	一、九四九、五〇〇
費	惠與	一、五七〇〇〇	六、九三〇〇〇
		一〇、六一九〇〇〇	九、六二九、二五〇
	備品費	四八九〇〇〇	四四一〇〇〇
	消耗品費	八八三〇〇〇	七、九四八〇〇
	種牛購入費	三、〇〇〇〇〇〇	三、〇〇〇〇〇〇
	種豚購入費	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇
	種卵購入費	九〇〇〇〇	九〇〇〇〇
	肥料費	一〇〇〇〇	八九〇〇
	種苗費	二五〇〇〇	二五〇〇〇
	飼料費	四、八一〇〇〇	四、三二一〇〇〇
	宿直賄料	九二五〇	九二五〇
	通信運搬費	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇
	圖書印刷費	八〇〇〇〇	七、五六四〇〇

借地料	八六四〇〇〇	五、一八〇八〇
牽付費	一、二五〇〇〇	一、〇四八一〇
試驗費	四〇〇〇〇	三、九八二〇
雜費	二〇〇〇〇	一、八八五〇
修繕費	三〇〇〇〇〇	三、七八〇〇〇
豚舎柵修繕	二五〇〇〇〇	二、五〇〇〇〇
小破修繕	五〇〇〇〇	二、一八〇〇〇

七、事業ノ概況

本年度ニ於テ行ヒタル事業ノ概況左ノ如シ

- 一、種牛ノ蕃殖育成
- 二、種牡牛ノ餘勢種付
- 三、種豚ノ蕃殖育成
- 四、種鶏孵化育雛
- 五、種畜種鶏、種卵ノ配付
- 六、乳肉ノ加工
- 七、飼料作物ノ栽培
- 八、畜産ニ關スル講習講話、實地指導並質疑應答

九、種鶏ノ産卵能力ニ關スル調査
一〇、畜牛人工授精試験

八、事務ノ概況
イ、職員

任 命 年 月 日	職 名	氏 名
昭和四年四月四日	場長 地方農林技師	坂井健一郎
昭和六年三月三十一日	勸業主事補	粟生山磯次
大正十四年四月二十二日	農林技手	葛谷壽亮
昭和三年四月一日	同	佐藤彌太郎
昭和二年五月二十五日	同	龍田泉
昭和四年三月三十一日	同	鈴木誠
採 用 年 月 日	備 員	氏 名
大正十五年八月五日農手ヨリ轉ス	牧 手	寺下九平
昭和二年十二月四日	同	佐野伊登志

ハ、職員及備人ノ異動

任 命 備 年 月 日	退 職 解 備 年 月 日	職 備 名	氏 名
昭和二年十一月三十日	同	伊藤政名	伊藤政名
昭和五年六月二十五日	同	五十嵐松雄	五十嵐松雄
昭和六年三月十三日	同	山田務	山田務
昭和三年六月一日	農 手	富田與作	富田與作
昭和五年六月二十五日	小 使	近藤春吉	近藤春吉
昭和六年三月三十一日	昭和六年三月三十一日	勸業主事補	粟生山磯次
昭和五年六月二十五日	昭和五年六月二十五日	農林主事補	西島作次郎
昭和五年六月二十五日	昭和五年六月二十五日	牧 手	五十嵐松雄
昭和五年六月二十五日	昭和五年六月二十五日	小 使	五十嵐松雄
昭和五年六月二十五日	昭和五年六月二十五日	小 使	近藤春吉
昭和五年六月二十五日	昭和五年六月二十五日	牧 手	山田務
昭和六年三月十三日	昭和六年三月十三日	牧 手	森谷宏

郡市別	二、職員出張		講習	講話	審査	日用
	實地指導	回数				
郡市別	回数	日数	回数	日数	回数	日数
足羽郡	八	八	三	三	一	一
吉田郡	八	八	一	一	一	一
坂井郡	一七	三	一	一	一	一
大野郡	一九	三五	四	二	三	一
今立郡	二〇	一〇	三	九	一	一
丹生郡	八	八	七	三	二	一
南條郡	三	八	一	一	一	一
敦賀郡	三	八	一	一	一	一
三方郡	四	四	一	一	一	一
遠敷郡	七	二	三	一〇	一	一
大飯郡	五	八	一	一	一	一
計	二二	一三五	三	四〇	六	一四

區分	人員	一、事務打合會議		官公吏	農及畜産業	學生	徒	其他	計
		一回	七日						
區分	人員	一回	七日						
一、事務打合會議		一回	七日						
二、種牛ノ購入及輸送		二回	一四日						
計		三回	二一日						
區分	人員	官公吏	農及畜産業	學生	徒	其他	計		
人員	一三九	六六	二八三	五	一、一六六				

文書ニヨル質疑及參觀ト質疑トヲ兼ネタル來場者等ニハ常ニ實地ニ就キ懇切丁寧ニ回答及指導セリ

第二章 種畜種禽

一、畜牛
 當場繋養ノ畜牛ハ本縣産牛ノ改善ヲ圖ラムガ爲メ乳用種ニアリテハ「ホルスタイン」種役肉用種ニアリテハ改良和種ヲ飼養蕃殖シ種牡牛ハ場内種付ノ外ニ餘勢種付ヲ行ヒ殊ニ本年ハ千葉縣ヨリ優良種牡牛ヲ壹頭購入シ將來益々縣内産牛ノ改善ヲ努ムトセリ

産積中牝ハ縣内希望者ニ拂下ケ以テ改良ノ原種トナシ杜積ハ育成ノ上体格及發育ヲ考査シ以テ候補種牝牛拂下規程ニ依リ拂下ヲ行ヘリ
 生産牛乳ハ積育成ノタメ使用シ殘乳ノ一部ハ産乳ノ儘之ヲ拂下ケ一部ハ「バター」ノ製造其他乳加工試験ニ供セリ

イ、畜牛現在表（年度未現在）
 一、種牝牛 三頭

名	號	種	類	生年月日	毛色	産地	血	統
第二十八サージョハナ	ビーターチエーマシー	ホルスタイン		大正十二年八月	黑白班	北海道	父サージョハナビーターチエーマシーデス號 母アーチーセーローアイゲロツタセコンド號	
サージョカメー	ダツチラントアーチス	ホルスタイン		昭和四年一月	白黒班	千葉縣	父サーインカメー八世號 母ダツチラントクインアーチス號	
第十九大鳳號		改良和種		大正十年一月	黒	鳥取縣	不明	

二、種牝牛 三頭

名	號	種	類	生年月日	毛色	産地	血	統
フイーマン	第三スシーセコント	ホルスタイン		大正十二年四月	白黒班	岩手縣	父ロートヨーヘム號 母第五ヘンドリカ號	
オームスピ	第三スシーセコント	ホルスタイン		大正十二年十月	黑白班	北海道	父サージョハナビーターチエーマシーデス號 母アーチーセーロースーセセコント號	
出雲		改良和種		大正十三年十二月	黒	島根縣	不明	

三、生産牛 七頭

名	號	種	類	生年月	性	毛色	血	統
スシ	三世號	ホルスタイン		昭和三年七月	牝	黑白班	父第廿八サージョハナビーターチエーマシーデス號 母第三スシーセコントオームスピ號	
フイーマン	五世號	ホルスタイン		昭和三年十二月	牝	白黒班	父第廿八サージョハナビーターチエーマシーデス號 母フイーマン號	
フイーマン	六世號	ホルスタイン		昭和三年十二月	牝	黑白班	父第廿八サージョハナビーターチエーマシーデス號 母フイーマン號	
スシ	四世號	ホルスタイン		昭和五年三月	牝	黑白班	父第廿八サージョハナビーターチエーマシーデス號 母第三スシーセコントオームスピ號	
フイーマン	七世號	ホルスタイン		昭和五年十月	牝	白黒班	父第廿八サージョハナビーターチエーマシーデス號 母フイーマン號	
出雲	二世號	改良和種		昭和二年二月	牝	黒	父不明（妊娠ノマ、購入） 母出雲號	
出雲	四世號	改良和種		昭和四年三月	牝	黒	父島若號 母出雲號	

四、畜牛移動表

名	號	種	類	性	生年月	毛色	生地	移動月日	摘	要
ディアマンチエー四世		ホルスタイン		牝	昭和三年八月	黑白班	當場	昭和五年六月一日	丹生郡畜産組合へ	
サージョカメーダツチ		ホルスタイン		牝	昭和四年一月	白黒班	千葉縣	昭和五年六月十二日	千葉縣ヨリ購入	
ランドアーチス		ホルスタイン		牝	大正十年四月	黒	島根縣	昭和六年一月十五日	福井市日ノ出下町 村田五右衛門へ賣却	

右	フイーマン七世號	ホルユタイン	昭和五年	白黒班	當場	昭和五年	生産
右	ホームステッド	ホルスタイン	大正九年	黒白班	北海道	昭和五年	縣ヨリ保換轉換
右	同	同	同	同	同	昭和六年	福井市日ノ出下町
右	同	同	同	同	同	昭和六年	村田五右衛門(賣却)

八、種牝牛種付成績表

種牝牛名	種供牝牛名	種付年月日	回数	分定日	年月日	摘要
ホルスタイン種 フイーマン號	第二十八サマシヨハナビターチエ マシードス號	昭和四年 十二月卅一日	三		昭和五年 十月七日	牝犢分挽
右	同	昭和六年 三月十二日	一			不妊
ホルスタイン種 二スシセコンド オームスビ號	第二十八サマシヨハナビターチエ マシードス號	昭和五年 五月二十日	一			不妊
右	同	昭和五年 十一月十二日	四		昭和五年 三月廿日流産	
右	同	昭和六年 一月二十一日	一		昭和六年 十月卅日	
右	同	昭和五年 五月五日	二			不妊
ホルスタイン種 スシ三世號	第二ダツチランドキンケパルトワイ リアム號	昭和五年 九月廿二日	四		昭和六年 七月一日	
右	同	昭和五年 八月廿七日	三		昭和六年 五月廿日	
改良和種出雲號	第十九大鳳號	昭和五年 八月七日	三			

改良和種出雲四 第十九大鳳號 昭和五年 八月十三日 一 昭和六年 五月廿日

(A) 種牝牛名 二、種牝牛余勢種付成績表 其ノ一

種牝牛名	生年月	種付年月日	種付回数	分娩豫定日	管理者氏名
ヘツシーウオーカー	大正十五年 二月	昭和五年 十月十四日	四	昭和六年 七月二十三日	松原昇
第二ブレスボンチャツ クマセズスター	昭和二年 三月	昭和五年 十一月二日	二	昭和六年 八月十一日	野村紋太夫
第二子ザランドビー ゼーオームスビー	大正十五年 七月	昭和五年 十一月四日	二	昭和六年 八月十三日	山本元吉
ブレスカツボンチャ ツクスター	大正十一年 十一月	昭和五年 十月十八日	一	昭和六年 七月二十七日	野村紋太夫
シユルチエサラスアレ キサンダ	大正十四年 三月	昭和五年 七月廿九日	二	昭和六年 九月七日	野村正至
ブレスヅイラマシデス スター	昭和三年 三月	昭和五年 七月十九日	一	昭和六年 八月二十八日	野村紋太夫
グレスフエンホームス テッド四世	昭和三年 四月	昭和五年 十一月廿日	一	昭和六年 八月二十九日	野村長左衛門
テアルコロンダイクホ マベル	大正十四年 十月	昭和五年 十二月廿四日	一	昭和六年 九月二日	岡魁治
クララエコウシルブイ ア	大正十五年 八月	昭和五年 十二月廿五日	一	昭和六年 九月三日	城地六右衛門
グルスフエンヘンドリ ツクジヨハナ	大正十五年 九月	昭和六年 一月十一日	二	昭和六年 十月二日	野村長左衛門

メクシドルボンバーマ ドリード	大正十四年 二月廿六日	昭和六年 一月卅一日	二	昭和六年 十一月九日	岡田才右衛門
第一フイーマンスタ グレスフエンドリック オカダ	昭和三年 三月	昭和六年 三月八日	一	昭和六年 十二月十五日	野村紋太夫
	大正十一年 十二月	昭和六年 三月十八日	一	不 妊	岡田才右衛門

(五) 種牡牛名 第二十八サージョハナヒーターセマシードス號

牝牛名	生年月	種付年月日	種付回数	分娩豫定日	管理者氏名
シユルヂエー	昭和二年 七月	昭和五年 五月十二日	三	不 妊	吉川清左衛門
第五マドリガルジョハ ナ	昭和二年 十月	昭和五年 十月一日	四	昭和六年 七月十日	瀧波勇平
第五月ヶ瀬	昭和三年 十月	昭和五年 九月廿八日	四	不 妊	全 人
第八千鶴	昭和四年 二月	昭和五年 十月十八日	四	不 妊	全 人
黒	大正十五年 二月	昭和五年 十二月五日	二	昭和六年 九月十三日	野村正至
第二ア リダ	大正十四年 七月	昭和五年 九月廿三日	一	昭和六年 七月二日	野村紋太夫
ネザ ーランドサージョ ハナ	大正十五年 五月	昭和五年 七月十五日	一	昭和六年 八月二十四日	野村正至

ホ、種牡牛餘勢種付成績表 其ノ二

供用種牡牛	本年度 種付頭數	同 回数	受胎數	前 年度 種付 牝牛 計	本 年度 種付 牝牛 計
第二十八サージョハ ナ ビーターチエーマシ ードス	七	一	四	三	二
サー インカ メー ダツチ ランド アーチ ス	三	一	三	一	一

備考 種牡牛サーインカメーダツチランドアーチス號ハ昭和五年八月種牡牛検査ニ合格同年九月ヨリ種付開始セリ

ハ、泌乳成績表

月別	種乳牛名	總乳量	最高量	種乳牛名	總乳量	最高量	月計
四月	フイーマン號四産	三五六、九〇〇	一三、八四八	フイーマン號五産	七二、五四三	三三、一三三	一〇七、八四三
五月	昭和三十二年十二月十七日分娩	二四三、八一〇	一〇、八八七	第三スシーセコンドオームスビー號四産	八三九、九五五	三四、四七四	一〇八三、七三五
六月		六八、七〇〇	九、九九〇	昭和五年三月二十九日分娩	七二、四五五	二七、二六	七九六、一四五
七月		二二、三七五	一、三五〇		五〇八、六〇〇	二三、九五〇	五三九、九五五
八月		二二、三〇〇	一、三五〇		四三一、三〇〇	一六、二〇〇	四五二、五三〇

九月	三、八〇〇	一、五〇〇	—	—	四四六、八〇〇	一七、二〇〇	四五〇、六〇〇
十月	—	—	三七六、二〇〇	二〇、五〇〇	四六九、三五〇	一七、〇〇〇	八四五、五五〇
十一月	—	—	五七七、九〇〇	二四、六〇〇	四〇九、四〇〇	一七、一〇〇	九八七、三〇〇
十二月	—	—	六二二、二〇〇	二五、〇〇〇	四一七、七〇〇	一五、〇〇〇	一〇三八、九〇〇
一月	—	—	四八七、五〇〇	一八、五〇〇	三四五、五〇〇	一二、六〇〇	八三三、〇〇〇
二月	—	—	三五、四〇〇	一五、五〇〇	二六三、五〇〇	一一、〇〇〇	六四四、九〇〇
三月	—	—	三〇六、七〇〇	一一、二〇〇	二八〇、七〇〇	九、七〇〇	五八七、四〇〇
計	七五、九〇五	—	二七〇、九〇〇	—	五六一、六七三	—	九二九、四六八

ト、生産牛乳ノ處理

本年度ノ當場生産牛乳ハ種牝牛二頭ヲ以テ九二九八、四七八斤ニシテ之レガ處分ヲ示セバ次ノ如シ

- 一、生乳拂下量 二、八九二、〇〇〇
- 一、積 哺 乳 量 五八七、六〇三
- 一、「バター」加工原料 五、五九三、六七〇
- 一、其他加工試験 二二五、二〇五
- 計 九、二九八、四七八

二、豚

豚ハ「中ヨークシャー」種ヲ本縣ノ獎勵品種ト定メ之ガ純粹蕃殖ヲ行ヒ生産仔豚ハ育成ノ上希望者ニ配付シ以テ縣下養豚業ノ普及發達ヲ圖レリ
 近時農村不況ノ打開策トシテ養豚ヲ希望スルモノ頓ニ増加シ從ツテ當場ニモ配付方出願者多數ニ亘レルヲ以テ全能力ヲ盡シテ仔豚ノ生産育成ニ努メ之ガ配付ノ潤滑ニシ尙近親蕃殖ノ幣ヲ避ケ血液ノ更新ヲ計ランガ爲千葉縣ヨリ新血種牡候補一頭ヲ購入セリ

イ、豚 現在表 (年度未現在)

一、種 牡 豚 一 頭

種 類	名 號	生年月	産 地	血	統	購入年月
ヨークシャー種	ヒストンチャン ピオンワンドラ	大正十五年 四月	千葉縣	父ヒストンワンドラ十六世 母チャンピオン		大正十五年 九月

二、種 牝 豚 八 頭

種 類	名 號	生年月	産 地	血	統	購入年月
ヨークシャー種	ヒストンロバー ブライド	大正十五年 三月	農林省 畜産試験場	父ヒストンロバー二十一世 母ヒストンブライド十三世		大正十五年 七月
同	レントヂェウエル	大正十五年 六月	千葉縣	父ヒストンワントリ十六世 母ヂェウエル		大正十五年 九月
同	やまがらをかだ	昭和二年 八月	福井縣	父白雪號 母やまがら號		昭和二年 十一月
同	てふをかだ	昭和三年 一月	福井縣	父白雪號 母てふ號		昭和三年 三月
同	福 千	昭和二年 六月	當 場	父千種號 母千種號		昭和三年 五月編入

同	第二 やまがらをかだ	昭和三年	福井縣	父白雪號	昭和四年
同	ヘラルト ボツビーブ	昭和四年	農林省 畜産試験場	父ヒストンヘラルト號	昭和五年
同	福壽	昭和五年	當場	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母福千號	昭和六年 三月編入

三、候補種豚 三頭

種類	名	牝牡別	生年月	産地	血	統	購入年月
ヨークシャー種	アスターブライ	牝	昭和五年九月	千葉縣	父フオートブライアン號 母アスターオブロージグ號		昭和六年二月
同	千鳥	牝	昭和五年四月	當場	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母千葉號		
同	山櫻	牝	昭和五年四月	當場	父ヒストンチャンピオンワンドラ號 母やまがらをかだ號		

四、仔豚 九頭

種類	名	號	産次	生年月日	牝頭	牝	計
ヨークシャー種	福千	ノ仔	四	昭和五年十月二十九日	一	一	一
同	レツトヂエウエル	ノ仔	六	昭和五年一月二十四日	二	一	三
同	若葉	ノ仔	二	昭和五年一月二十七日	一	一	一
同	第二やまがらをかだ	ノ仔	三	昭和五年一月三十日	一	一	一

種類	名	號	牝牡別	生年月	産地	移動年月日	摘要
同	ブライイトン	ノ仔	一	昭和五年七月二十三日			
計							

ロ、種豚異動表

種類	名	號	牝牡別	生年月	産地	移動年月日	摘要
ヨークシャー種	ヘンドリー	ローズビ	牝	昭和四年十月	農林省 畜産試験場	昭和五年十一月廿三日	急性腸炎ニテ斃死
同	千葉	葉	牝	大正十一年八月	同	昭和六年一月廿一日	老齡ノ爲肉加工ニ供用
同	若葉	葉	牝	大正十三年三月	同	同	同
同	アスターブライ	アン	牝	昭和五年九月	千葉縣	昭和六年五月五日	候補種豚トシテ購入

ハ、種豚蕃殖成績表

一、種牡豚種付成績

種類	名	號	種付牝數	種付回数	受胎頭數	受胎率
ヨークシャー種	ヒストンチャンピオンワンドラ		二頭	三回	二頭	100%
牝産	計		最多	最少	平均	
七三	六	一三九	一四	七	九、九	
牝産	計		最長	最短	平均	
七三	六	一三九	二六日	二三日	二四日	

二、種牝豚種付成績

種	類	名	號	供用種牝豚名	種付回数	種付年月日	分娩年月日	在胎日數	生産頭數		死産
									牝	計	
ヨークシャー種	若	葉	葉	ヒストンチャン ピオンワンドラ	一	昭和四年 七月九日	昭和五年 四月六日	二四	七	二	九
					二	昭和五年 八月五日	昭和五年 十二月二十七日	二四	二	五	七
同	千	葉	葉	ヒストンチャン ピオンワンドラ	一	昭和四年 七月六日	昭和五年 四月六日	二四	五	二	七
					一	昭和五年 七月四日	昭和五年 十月廿日	二四	三	三	六
同	同	ヒストンロバ ブライド	同	ヒストンチャン ピオンワンドラ	一	昭和五年 一月廿日	昭和五年 五月廿日	二六	六	四	一〇
					一	昭和五年 九月六日	昭和五年 三月卅日	二五	四	四	八
同	同	レツトヂエウ エル	同	ヒストンチャン ピオンワンドラ	一	昭和五年 八月三日	昭和五年 十二月廿日	二三	五	三	八
					一	昭和六年 二月十日	妊娠中	一	一	一	一
同	同	てふをかだ	同	ヒストンチャン ピオンワンドラ	一	昭和五年 六月廿日	昭和五年 十月廿日	二四	五	一	六
					一	昭和六年 一月六日	妊娠中	一	一	一	一

一、年度内生産仔豚異動表

種牝豚名	區	分	回	分	數	牝	牝	別	生産頭數	拂	異	下	斃死其他	數	翌年度繰越
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

足羽郡	郡市別	へ、最近五ヶ年間種豚拂下比較表				
		昭和元年度 頭數-價格	昭和二年度 頭數-價格	昭和三年度 頭數-價格	昭和四年度 頭數-價格	昭和五年度 頭數-價格
	計	二四七	四二	三四	七六	三〇五、〇〇
	大飯郡	一	一	一	一	二四、五〇
	遠敷郡	六	一	一	一	二二、〇〇
	三方郡	一六	四	三	七	二八、〇〇
	敦賀郡	二	一	一	一	二、〇〇
	南條郡	四九	五	二	七	三七、〇〇
	丹生郡	三	二	一	三	一四、〇〇
	今立郡	四二	〇	八	八	八三、〇〇
	大野郡	六	一	一	一	一四、〇〇
	坂井郡	七	三	〇	三	八七、五〇
	吉田郡	一九	六	六	三	三八、〇〇
	計	二四七	四二	三四	七六	三〇五、〇〇
	大飯郡	一	一	一	一	二四、五〇
	遠敷郡	六	一	一	一	二二、〇〇
	三方郡	一六	四	三	七	二八、〇〇
	敦賀郡	二	一	一	一	二、〇〇
	南條郡	四九	五	二	七	三七、〇〇
	丹生郡	三	二	一	三	一四、〇〇
	今立郡	四二	〇	八	八	八三、〇〇
	大野郡	六	一	一	一	一四、〇〇
	坂井郡	七	三	〇	三	八七、五〇
	吉田郡	一九	六	六	三	三八、〇〇
	計	二四七	四二	三四	七六	三〇五、〇〇

足羽郡	郡市別	出願頭數	ホ、種豚拂下表				
			牛	猪	豚	下	計
	計	二	二	二	二	二	二
	吉田郡	一	一	一	一	一	一
	坂井郡	一	一	一	一	一	一
	大野郡	一	一	一	一	一	一
	今立郡	一	一	一	一	一	一
	丹生郡	一	一	一	一	一	一
	南條郡	一	一	一	一	一	一
	敦賀郡	一	一	一	一	一	一
	三方郡	一	一	一	一	一	一
	遠敷郡	一	一	一	一	一	一
	大飯郡	一	一	一	一	一	一
	計	二	二	二	二	二	二

足羽郡	郡市別	出願頭數	備考 拂下欄ニハ廢用拂下六頭ヲ含ミ斃死其他欄ニハ撲殺加工用屠殺等ヲ含ム				
			牛	猪	豚	下	計
	計	二	二	二	二	二	二
	吉田郡	一	一	一	一	一	一
	坂井郡	一	一	一	一	一	一
	大野郡	一	一	一	一	一	一
	今立郡	一	一	一	一	一	一
	丹生郡	一	一	一	一	一	一
	南條郡	一	一	一	一	一	一
	敦賀郡	一	一	一	一	一	一
	三方郡	一	一	一	一	一	一
	遠敷郡	一	一	一	一	一	一
	大飯郡	一	一	一	一	一	一
	計	二	二	二	二	二	二

福	てふをかだ	同	レット チエウエル	同	ヒストンロバ ブライド	同	若	同	第二 やまがらをかだ	同	千	やまがらをかだ	やまがらをかだ
千						葉				葉			
四	三	六	五	六	七	二	一	三	二	二	一	四	三
昭和五年 十月廿九日	昭和五年 十月廿五日	昭和五年 十月廿四日	昭和五年 五月二日	昭和五年 五月廿四日	昭和五年 十二月卅日	昭和五年 十月廿七日	昭和五年 四月十八日	昭和五年 十一月卅日	昭和五年 四月十二日	昭和五年 十月廿六日	昭和五年 四月十一日	昭和五年 十月十八日	昭和五年 四月八日
牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝
六二	五五	三五	六五	四六	四四	五二	二七	四三	五五	三三	二五	六五	四六
二八〇、八	二七五、〇	二四八、〇	二二八、〇	三三〇、〇	三三九、〇	三三三、〇	二二六、〇	二二五、〇	二二四、〇	二二四、〇	二二四、〇	二二五、〇	二二五、〇
六七三、三	七二〇、〇	六三〇、〇	六六〇、〇	七〇二、〇	五五七、〇	六二五、五	六五五、〇	七一〇、〇	五〇〇、〇	五〇六、七	五〇六、七	六七三、〇	六八七、〇
一、一六六、七	一、一〇〇、〇	一、一五三、三	一、一八八、〇	一、〇九二、〇	九六三、〇	九八二、〇	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
一、六四一、〇	一、六二〇、〇	一、六六三、三	一、三三〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇	一、二二〇、〇
二、〇七三、三	二、〇〇五、〇	二、一六六、七	一、四〇六、六	一、八八八、〇	二、〇八〇、〇	二、〇四〇、〇	一、五八九、〇	一、五五五、〇	一、五五五、〇	一、五五五、〇	一、五五五、〇	一、五五五、〇	一、五五五、〇
二、四五〇、〇	二、三二〇、〇	二、五〇〇、〇	二、二〇〇、〇	二、四一〇、〇	二、五七五、〇	二、四一〇、〇	一、七八〇、〇	二、二五七、〇	二、二五七、〇	二、二五七、〇	二、二五七、〇	二、二五七、〇	二、二五七、〇

母豚名	産次	生年月日	牝別	均生時平	全十日目	全廿日目	全卅日目	全四十日目	全五十日目
計	五	昭和五年 四月八日	牝	二八二、五	六八	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
福井市	一	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
遠敷郡	一	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
三方郡	二	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
敦賀郡	三	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
南條郡	四	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
丹生郡	一	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
今立郡	二	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
大野郡	三	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
坂井郡	四	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七
吉田郡	五	昭和五年 十月十八日	牝	二二五、〇	六	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七	一、〇六六、七

計	一四腹	牝畜 二五、〇〇	二六五、〇〇	六四二、〇〇	一、〇四五、〇〇	一、四六四、〇〇	一、八四八、〇〇	二、二四一、〇〇
		二五、〇〇	二六五、〇〇	六四二、〇〇	一、〇二六、〇〇	一、五〇五、〇〇	一、九四一、〇〇	二、三九九、〇〇

三、鶏

本縣ニ於ケル養鶏ハ逐年普及進歩ノ度ヲ増シ殊ニ本年ハ農村不況ニ處センガ爲メ新ニ養鶏ニ志ス者著シク増加シ鶏種モ亦從來ハ雜駁甚シカリシモ漸次統一ノ氣運ニ向ヒツ、アルガ故ニ以下ニ掲クル種類ハ最モ適當ト認メコレヲ飼育シ益々普及ニ努メタリ

本年ハ縣ニ於テ縣下十六ヶ所ニ委託種禽育成所ヲ設置シ之レニ當場ヨリ原種鶏ヲ本年八月七日ニ貸付飼養セシメテ當場事業ニ種禽種卵配布ノ一部ヲ行ハシメ併セテ地方指導ノ中心人物タラシメ益々斯業ノ發達普及ニ努メタリ今年度未現在當場飼養ノ種鶏數ヲ示セバ左ノ如シ

イ、種鶏現在表 (年度未現在)

區分	大正十四年		昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計
	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	
單冠白色 レグホーン種	二	一	四	二	三	一	三	二	五	六	八	一〇	一八二
名古屋種	一	一	一	二	一	九	一	二	一	二	二	四	四三
三河種	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二八
計	二	一	四	三	三	三	三	二	七	三	一〇	一六	二五三

備考 横班ブリマスロック種ハ本縣ニハ適當セザルガ故ニ本年度ニ於テ三河種ノ飼養ニ變更セリ

ロ、種鶏拂下表

區分	單冠白色 レグホーン種		名古屋種		三河種		人員計	人員 羽數
	人員	羽數	人員	羽數	人員	羽數		
足羽郡	一五	一八六	一	五	一	一	一六	一九二
吉田郡	九	三三	二	二	一	一	三	二五二
坂井郡	六	二四〇	三	三〇	一	一	九	二七〇
大野郡	九	一六	一	一	一	一	九	一六六
今立郡	三	二一〇	一	一	一	一	三	二一〇
丹生郡	三	二九六	一	〇	一	一	一三	三〇六
南條郡	一	一	一	一	一	一	一	一
敦賀郡	七	二九〇	一	一	一	一	七	二九〇
三方郡	一	一〇一	一	一	一	一	二	一〇一
遠敷郡	二	六六	一	三	一	一	四	九九
大飯郡	八	一九九	一	二〇	一	一	九	二一九
福井市	二	四五	一	一	一	一	二	四五
計	七四	一、九四〇	一〇	六九	二	三	八六	二、〇六〇

備考 本表ハ三十日雛、六十日雛、百日雛ノ拂下ヲ主トスルモ初生雛ノ拂下ヲモ掲載セリ
 ハ、最近五ヶ年間種鶏拂下比較表

種類	年次	昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度
種冠 白色レグホーン種		六七六羽	五四八羽	一、六二五羽	二、五〇九羽	一、九四〇羽
名古屋種		一八五	九七	一三二	一八八	九六
横班 フリマスロッグ種		七	九	一	三	一
三河種		一				
計		九六	六四	一、七七一	二、七二〇	二、〇六〇

備考 前年度ニ比シ拂下數ノ減少セシハ委託種禽育成所十六ヶ所ニ貸付スヘキ原種鶏三百二十羽ノ造成ニ
 因ル

二、種卵拂下表

區分	種冠白色レグホーン種		名古屋種		種冠白色レグホーン種		計
	件數	類數	件數	類數	件數	類數	
足羽郡	六	六	三	三	一七	九	一三
吉田郡	六	六	二	二	一五	八	一〇
坂井郡	三	三	一	一	一	三	二八
計	一五	一五	六	六	三二	一六	四八

ホ、最近五ヶ年間種卵拂下比較表

種類	年次	昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度
種冠 白色レグホーン種		四三九	一、三八八	七七七	九六五	六二四
名古屋種		一五	一八五	六四	一七四	六四
横班 フリマスロッグ種		八三	一三二	六七	一三	一
計		六三六	一、七〇三	九〇八	一、一五二	六八八

ヘ、人工孵化成績表 (供用解卵器別)

種類	年次	昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度
種冠 白色レグホーン種		四三九	一、三八八	七七七	九六五	六二四
名古屋種		一五	一八五	六四	一七四	六四
横班 フリマスロッグ種		八三	一三二	六七	一三	一
計		六三六	一、七〇三	九〇八	一、一五二	六八八

種類	區分	種河三			種屋古名			種一ホケレ色白冠單			
		延羽數	產卵數	延羽數	產卵數	延羽數	產卵數	延羽數	產卵數	延羽數	產卵數
計	四月	五、九七二	一、九〇四	六、五〇六	一、三、三八	四、七〇三	三、三、三三	七、四〇八	四、七〇三	三、三、三三	七、四〇八
	五月	五、九八四	一、六、七五	五、四、〇四	一、一、三四	四、六、九七	二、二、一七	六、六、二六	四、六、九七	二、二、一七	六、六、二六
	六月	五、七六〇	一、五、六三	五、一、〇八	九、〇七	四、五、九六	一、八、〇七	六、〇、二五	四、五、九六	一、八、〇七	六、〇、二五
	七月	五、九七二	二、〇〇〇	三、八、七二	六、七二	四、七、三三	一、六、四三	五、五、九八	四、七、三三	一、六、四三	五、五、九八
	八月	五、八八六	二、一、九八	三、八、七二	六、九〇	四、八、〇八	一、三、七六	四、四、四五	四、八、〇八	一、三、七六	四、四、四五
	九月	五、四七五、三三	二、七、六二、一八	四、二、五、八三、九二	八、二、六、九八	四、〇、七、三、九六	七、七、二	二、五、七、三、二四、五八	四、〇、七、三、九六	七、七、二	二、五、七、三、二四、五八
	十月	五、七、七三	一、〇、八九	三、六、三三	二、五、六	四、一、八、六	七、七、二	二、四、九、六	四、一、八、六	七、七、二	二、四、九、六
	十一月	六、八、八二、七	七、九、四一、〇	二、五、六、三三、八五、四五、六〇	六、三、四	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九
	十二月	六、八、八二、七	七、九、四一、〇	二、五、六、三三、八五、四五、六〇	六、三、四	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九
	一月	六、八、八二、七	七、九、四一、〇	二、五、六、三三、八五、四五、六〇	六、三、四	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九
	二月	六、八、八二、七	七、九、四一、〇	二、五、六、三三、八五、四五、六〇	六、三、四	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九
	三月	六、八、八二、七	七、九、四一、〇	二、五、六、三三、八五、四五、六〇	六、三、四	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九	四、九、〇、一、五、六、四、一、五、〇、九、七、五、〇、九、七、五、〇	七、七、二	二、五、七、九、三、三、九、三、五、〇、六、八、六、一、五、九
計		五、九七二	一、九〇四	六、五〇六	一、三、三八	四、七〇三	三、三、三三	七、四〇八	四、七〇三	三、三、三三	七、四〇八

ト、産卵調査表

種類	區分	供用解卵器		無精卵發育中止其他		破損死		續籠		有精卵ニ對スル解化百分率
		回数	入卵數	回数	入卵數	回数	入卵數	回数	入卵數	
計		四	一〇、七五	二	二、一一	一	一、〇八	七	一、二六〇	七三、三九
長友七號器		一	二四二	一	四七	一	一	一	五	八一、九二
長友六號器		一	一九三	一	六七	一	一〇	一〇	一〇	八四、〇〇
長友五號器		一	一八九	一	七三	一	一四	一四	八九	七六、〇六
長友四號器		二	二〇八	一	六三	一	九	一六	二〇	八二、一九
長友三號器		五	二、三、二六	一	六七八	一	二〇五	一三九	一、〇九九	七一、〇〇
長友二號器		五	二、三、三五	一	三〇五	一	二一〇	三三九	一、四六五	七三、五二
溫湯式		七	一、三、八三	一	二四〇	一	三三七	二一八	八八一	七七、一五
カイフアー器		三	四、五八	一	三〇	一	四五	五九	三三三	七五、四七
伴田三號器		六	一、二、五八	一	二二七	一	二二六	一四八	七三八	七二、二五
伴田二號器		五	九七三	一	一五二	一	一〇四	一四五	五六七	六九、〇六
伴田一號器		七	一、四、三三	一	二二二	一	二六	一七七	八四四	七四、四〇

計	産卵數		産卵率	一羽一ヶ月平均産卵數
	昭和元年度	昭和二年度		
計	四、一〇二	三、六六六	六八、四〇	二〇、六〇
産卵數	三、一六二	二、八八二	五五、四七	一六、四七
産卵率	二、四四一	二、四四五	四七、一九	一四、六三
一羽一ヶ月平均	一、三三二	一、四三三	二二、五〇	七、八〇
産卵數	一、三三二	一、四三三	二二、五〇	七、八〇
産卵率	一、四三三	一、五三三	二二、五〇	七、八〇
一羽一ヶ月平均	一、四三三	一、五三三	二二、五〇	七、八〇

子、最近五ヶ年間産卵成績比較表

區分	昭和元年度		昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度	
	出願數	拂下數	出願數	拂下數	出願數	拂下數	出願數	拂下數	出願數	拂下數
白色レグホーン種	一三三、七九	一〇〇、二八	一三九、〇九	一〇九、七三	一三九、〇九	一〇九、七三	一三九、〇九	一〇九、七三	一三九、〇九	一〇九、七三
名古屋種	一七二、三〇	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九
横班	一七二、三〇	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九
ブリマスロツク種	一七二、三〇	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九
三河種	一七二、三〇	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九
平均	一七二、三〇	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九	一八二、二九	一三九、〇九

リ、最近四ヶ年間ニ於ケル種雑種卵拂下出願數ト拂下數トノ關係

足羽郡	昭和二年度		昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度	
	出願數	拂下數	出願數	拂下數	出願數	拂下數	出願數	拂下數
吉田郡	一三〇	一〇五	一三〇	一〇五	一三〇	一〇五	一三〇	一〇五
坂井郡	四〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇
大野郡	八七二	七七一	八七二	七七一	八七二	七七一	八七二	七七一
今立郡	一、九五三	七三七	一、九五三	七三七	一、九五三	七三七	一、九五三	七三七
丹生郡	一〇九	九一	一〇九	九一	一〇九	九一	一〇九	九一
南條郡	四二	三三	四二	三三	四二	三三	四二	三三
敦賀郡	二二六	一六一	二二六	一六一	二二六	一六一	二二六	一六一
三方郡	二九七	二二七	二九七	二二七	二九七	二二七	二九七	二二七
遠敷郡	二二二	一六一	二二二	一六一	二二二	一六一	二二二	一六一
大飯郡	五〇	三〇	五〇	三〇	五〇	三〇	五〇	三〇
福井市	一、九三二	一、〇七一	一、九三二	一、〇七一	一、九三二	一、〇七一	一、九三二	一、〇七一
計	一、九三二	一、〇七一	一、九三二	一、〇七一	一、九三二	一、〇七一	一、九三二	一、〇七一

又、育雛成績ノ概要
 年度内孵化雛數五千八百三十六羽中成育ノ見込ナキ弱雛三百六十羽ヲ除キタル五千四百七十六羽ノ生存雛ニ

前年度繰越雛數一千二百羽ヲ加ヘ六千六百七十六羽ノ雛ヲ育成セシニ其ノ成績歩合七割四分ニシテ年度内拂下雛數二千六十羽ヲ常場候補種鷄數百八十羽各委託種禽育成所貸付ノ原種鷄三百八十羽更ニ技雄及發育良好ナラザルタメ廢鷄處分セシモノ八百十羽斃死雛數一千七百二十羽ニシテ翌年度へ繰越セシ雛數ハ一千五百三十四羽ナリ育雛ニ使用セシ仮母器ハ煉炭溫源ノ千羽入傘型雛器參臺同五百羽入傘型育雛器一臺同二百羽入傘型育雛器一臺計五臺ヲ使用セリ而シテ餌付後約四十日間(時季ニヨリ伸縮ス)ハ之レニヨリ給温セシモ再後ヲ無給温ニテ育雛セリ
給餌ハ後章ニ示セル餌料ノ割合ニヨリ粉餌ヲ給與シ給水ハ常ニ清水(冬季ハ微温湯)ヲ給シ尙時々酸乳ヲ與ヘ以テ胃腸ノ健康消化ノ完全ヲ圖リ成育ヲ促進セリ雛ノ舍外運動ハ餌付十日後ヨリ温暖ノ日ヲ選ヒテ之レヲ行ヒ以テ發育ノ完全ヲ圖レリ

ル、委託種禽育成所

本縣ニ於ケル養鷄ハ逐年普及發達ノ度ヲ増シツ、アリト雖更ニ急進的進捗ヲ圖ラムカ爲メ縣ニ於テ委託種禽育成所ノ設置ヲ企畫シ昭和五年八月一日福井縣告示第三三三號ヲ以テ福井縣委託種禽育成所規程ハ定メラレ全年全月全日福井縣告示第三三四號ヲ以テ縣下ニ左記十六ヶ所ノ委託種禽育成所ヲ設置セラレタリ

名稱	位置	管理者氏名
福井縣足羽委託種禽育成所	足羽郡酒生村荒木新保	五十嵐嘉瑞
福井縣吉田委託種禽育成所	吉田郡東藤島村上中	増田鑑堯
福井縣坂井第一委託種禽育成所	坂井郡芦原村田中々	士橋惣太郎

福井縣坂井第二委託種禽育成所	坂井郡細呂木村指中	伊藤豐
福井縣大野第一委託種禽育成所	大野郡猪ノ瀬村片瀬	平田熙
福井縣大野第二委託種禽育成所	大野郡下庄村中野	鈴木庄太郎
福井縣今立委託種禽育成所	今立郡新横江村鯖江	今立郡農會
福井縣丹生第一委託種禽育成所	丹生郡吉野村家久	西岡勇
福井縣丹生第二委託種禽育成所	丹生郡織田村織田	佐々木甚之助
福井縣南條委託種禽育成所	南條郡南日野村西大道	加藤八郎
福井縣敦賀委託種禽育成所	敦賀郡敦賀町大黒	小倉音吉
福井縣三方委託種禽育成所	三方郡八村三方	榎本伊三郎
福井縣遠敷第一委託種禽育成所	遠敷郡瓜生村下田中	岡本勘三郎
福井縣遠敷第二委託種禽育成所	遠敷郡雲濱村西津	宮前正介
福井縣大飯第一委託種禽育成所	大飯郡加斗村本所	新崎辰之助
福井縣大飯第二委託種禽育成所	大飯郡高濱町若宮	一瀬勝太郎

前記各委託種禽育成所ニハ規程ニ從ヒ一ヶ所毎ニ原種鷄トシテ單冠白色レグホーン種ノ四ヶ月雛二雄十八雌

計二十羽宛合計三百二十羽ヲ八月七日ニ貸付シ更ニ資質並ニ産卵能力ノ狀況ヲ考査シ優良ナラサルモノ及斃死鶏等ノタメ二回ニ六十羽ノ更新ヲ行ヒ當場ノ嚴密ナル指導監督ノ下ニ種禽種卵ノ配付ヲ行ハシメ尙地方ニ於ケル指導者タラシメ以テ斯業ノ進歩向上ニ盡サシメタリ今原種鶏貸付後初産卵時ヨリ年度末迄約四ヶ月間ノ産卵成績及事業ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

一、委託種禽育成所事業成績

區分	原種		種配		付種		數	
	延羽數	總產卵數	產卵率	配付出願數	配付數	配付出願數	配付數	
福井縣足羽委託種禽育成所	一、六六六	八七三	五三、三六%	—	—	—	—	
福井縣吉田委託種禽育成所	二、二三四	一、三四二	六三、一八	一七六	—	—	—	
福井縣坂井第一委託種禽育成所	一、六〇六	九三三	五八、七六	九五	三〇	—	—	
福井縣坂井第二委託種禽育成所	一、八七六	九六二	五一、三三	—	—	—	—	
福井縣大野第一委託種禽育成所	二、三〇五	一、五〇八	六五、四九	一六九	—	—	—	
福井縣大野第二委託種禽育成所	二、〇七五	一、三四〇	六四、五八	六六八	二五	—	—	
福井縣今立委託種禽育成所	二、二〇〇	八六一	四〇、六一	—	—	—	—	
福井縣丹生第一委託種禽育成所	二、三三五	一、五〇九	六四、六三	四〇〇	三五五	—	—	
福井縣丹生第二委託種禽育成所	二、二二四	一、三九八	六六、三八	二〇	二〇	—	—	
計	—	—	—	—	—	—	—	

福井縣南條委託種禽育成所	二、三三八	一、二二〇	五二、四一%	六	—	—	—
福井縣敦賀委託種禽育成所	二、〇〇七	一、二二〇	五五、八〇	一四九	一〇	—	—
福井縣三方委託種禽育成所	一、〇六一	五九六	四、五四	—	—	—	—
福井縣遠敷第一委託種禽育成所	二、二六八	八六二	三七、八四	二四〇	一六〇	—	—
福井縣遠敷第二委託種禽育成所	二、六六二	一、五二七	三七、三六	二二二	三四	—	—
福井縣大飯第一委託種禽育成所	二、七三四	一、七五五	六四、四四	七〇	六八	—	—
福井縣大飯第二委託種禽育成所	二、八四〇	一、六九一	五九、二三	二九五	二八〇	—	—
計	三三、四四三	一九、四九七	五八、六一%	二、五三六	一、二六三	—	—

第三章 飼養管理

一、飼養

飼料ハ概ネ次記飼料配合日量表ニヨリ給與セシモ經濟的ニ且ツ一般農家ニ於テ用フルニ便ナルモノヲ基準トシテ配合セリ而シテ畜牛ニアリテハ榮養泌乳妊否等ニ注意シ濃厚飼料ハ可成之レヲ除キ粗飼料ヲ主トシ以テ消化器關ノ發育保全ヲ促スコトニ留意セリ、濃厚飼料ハ乾燥ノ儘日量ヲ二回分ニ與ヘ尙季節榮養狀態泌乳量及發育中ノモノニアリテハ其ノ程度ニヨリ飼料ノ増減ヲ行ヒ粗飼料ハ主トシテ當場生産ノモノヲ用ヒ其ノ主ナルモノハ生牧草「エンシレージ」蕪菁青刈大豆、干草等ニシテ何レモ品質良好ナルモノヲ給與シタリ

豚ハ健否妊娠、發育ノ程度ニヨリ常ニ飼料ノ配合ヲ加減シ夏季ハ水冬ハ微温湯ヲ以テ攪拌粥狀トナシ日量ヲ
三回ニ分與セリ

鶏ハ季節發育等ヲ顧慮シ常ニ飼料ノ配合ニ注意シ天賦ノ能力ノ發揚ニ努メタリ
給養飼料ハ練餌粉餌粒餌ノ型ニ於テ練餌ハ一日三回粉餌ハ常ニ餌器ニ入レテ欲スルガ儘トナシ粒餌ハ夕飼
後撒餌トシテ與ヘタリ、給水ハ畜牛ニアリテハ食後之ヲ行ヒ尙運動場ニハ水槽ヲ設ケ毎日新鮮ナル冷水ヲ滿
タシ運動中自由ニ飲マシメタリ豚鶏ニアリテハ毎日新鮮ナル清水ヲ容器ニ滿タシ自由ニ飲水セシメタルモ夏
季ハ一日二三回新鮮ナルモノト入レ替ヘ尙ホ夕飼後ハ取除キ翌朝更ニ新鮮ナルモノヲ與ヘタリ今各家畜家禽
ニ就テ給與飼料ノ例ヲ擧クレバ左ノ如シ

イ、畜牛飼料給與量及配合例

區分	濃厚飼料日量	濃厚飼料配合割合			食鹽	生草(干草)
		大麦挽割	玉蜀黍挽割	大豆粕		
ホルスタイン種 牛	七斤	三	一	一	二	六〇瓦 (五)四〇斤
ホルスタイン種 牝	七	四	一	二	一	六〇 (五)四〇
ホルスタイン種 牛	七	四	一	二	一	六〇 (五)四〇
候補種 牛	四	三	一	二	二	四〇 (四)三〇
積種 牛	二	三	一	一	二	二〇 (二)二〇
改良種 牛	四	二	一	一	一	六〇 (五)四〇
改良種 牛	四	二	一	一	一	六〇 (五)四〇
種改良種 牛	四	三	一	一	三	六〇 (五)四〇

改良種	積種	候補種	種改良種	種改良種	種改良種
二	二	二	四	四	四

備考 一、濃厚飼料日量ハ本表ヲ基準トシ尙各個体ノ情况ニヨリ之ヲ増減ス
二、本表中生草、干草トアルハ春夏秋ノ生草期ニハ生草ヲ給與シ冬季生草ナキ時ハ生草ノ代リニ干草ヲ給與スル量ヲ示セリ
三、冬季間飼料トシテ干草ノ外蕪菁「エンシレージ」青刈大豆等ヲ給與ス

當場生産ノ内「ホルスタイン」種ハ特別ノ事情ナキ限リ凡テ人工哺乳ヲ行フコト、ナシ其量ハ牝ハ生体量ノ七分ノ一牝ハ八分ノ一トシ尙發育狀態ニヨリ幾分耐スルコト、セリ而シテ産後四週日ヨリ哺乳ノ傍ラ濃厚飼料ヲ給シ成育ト共ニ其量ヲ増加セリ而シテ生後六ヶ月生体量貳百斤内外ニ於テ斷乳ヲ行ヒ濃厚飼料ヲ給與セリ改良種ニアリテハ人工哺乳ヲ行ハス常ニ母牛ニ付テ隨意ニ哺乳セシメ生後一ヶ月ヨリ少量ノ濃厚飼料ト粗飼料ヲ給與シ逐次増量ス而シテ生後六ヶ月ヲ以テ斷乳セリ

ハ、種豚飼料配合例

區分	麩	米	糠	大豆粕	醬油粕	魚粉	生草科
牝豚	二五〇	二〇〇	二〇〇	五〇	三〇〇	一〇	二、〇〇〇
牝豚	三五〇	二〇〇	二〇〇	五〇	三〇〇	一〇	一、五〇〇
仔豚	三五〇	一五〇	一五〇	一五〇	三〇〇	一五	一、五〇〇
仔豚	一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇	一〇〇	五	五〇〇

備考 冬季生牧草ニ代フルニ蕪菁ヲ給與ス

二、種鶏飼料配合例

區分	穀	米糠	麥糠	高粱	粃	玉蜀黍	大割麥	鯨粕	青菜	貝殼
單冠 白色 レグ ホーン 種	六	三		四	一	六	三	三	二〇	若干
名古屋 屋種	六	三		三	四	三	三	三	二〇	若干
三河 種	六	三		四	四	三	三	三	二〇	若干

ホ、育雛飼料配合例 (重量比)

區分	餌付後四日間	孵化後一ヶ月迄	孵化後二ヶ月迄	孵化後三ヶ月迄
小 米	三五	一五	一〇	一五
粟	二五	二五	一五	一〇
玉蜀黍	一〇	一三	二〇	一五
粃	一	一	一五	二〇
小 麥	二〇	二〇	一〇	一〇
穀	一〇	一五	一〇	一〇
米 糠	一	一	七	七

魚粉	一	一三	一三	一三
----	---	----	----	----

備考 骨粉、貝殼、青菜ハ適宜給與ノコト
へ、飼料ノ購買及消費

品目	購買及消費量	購入金額
穀	二、七九四〇〇	五八、二四五〇
米糠	二、〇三八一〇〇	二七、三四七〇
玉蜀黍	二、二六四四〇	七、二七五〇
大麥	一、〇九五〇〇〇	三、七二四〇
粃	五、二五三〇〇	一、一〇三、一〇
小麥	一、一六九六〇〇	三、七二五〇
高粱	三、九六一〇〇	六、九一四〇
玄粟	二、四〇〇〇〇	六、二一〇〇
屑米	三、六九一〇	三、六五一六〇
鯨	五、〇〇〇〇	二、四〇〇〇

蟹皮粉	180000	50000
アルハルファール	13000	5000
白麥	5000	14000
鱒魚粉	100000	35000
野生草	475700	76090
燕麥	473400	107600
大豆	1100	19200
大葉	8981000	82460
乾草	3572000	357200
貝殼	165000	2150
食鹽	1900	28900
大豆粕	950000	233500
醬油粕	753000	33910
鯨粕	378400	224160

計 1200000 2000000 3200000

二、管理

動物ノ取扱ニハ常に周到ナル注意ヲ拂ヒ以テ天賦ノ能力ヲ發揚セシムルコトニ努メタリ即チ畜牛ニアリテハ日々体梳拭ヲ嚴重ニ行ヒ汚染甚シキ部分ハ水或ハ微温湯ヲ以テ洗滌シ運動ハ季節及榮養状態並分娩前後等ヨリ多少斟酌ヲ加ヘタルモ種牡牛ニアリテハ牽運動或ハ繫索運動ヲ行ハシメ牝牛ニアリテハ日々運動場ニ出シテ少クとも三時間以上ノ逍遙運動ヲ課セリ、豚及鶏ニアリテハ雨雪烈シカラサル限りハ常に舍内ト運動場トノ間隔ヲ開放シテ逍遙セシム種鶏ニアリテハ冬季積雪ノ際ハ運動不十分ナルカ故ニ搔床ヲ作り搔撥運動ヲナサシメタリ、舍内ノ清潔及空氣ノ交流ニ就テハ常に注意ヲ拂ヒ年二回ノ洗滌及消毒ヲ行ヒ以テ動物ノ健康保全ニ努メタリ、畜牛及豚ニハ敷糞ヲ給シ汚染甚シキ部分ハ日々交換補給シ換氣調節ハ夏ハ冷涼ニ冬ハ温暖ニ保タシメ空氣ノ交流ヲ良好ナラシメタルモ愛護過度ニ過キテ體質ヲ羸弱ナラシメサル様注意シ特ニ風雪寒ク又炎暑ノ際ト雖モ相當時間内ハ舍外ニ出シテ個体ノ抵抗力ヲ旺盛ナラシムル様努メタリ、疾病ニ對シテハ特別ナル注意ヲ拂ヒ努メテ未然ニ防遏スルノ策ヲ講セリ、畜牛ノ護蹄ニ關シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ年二回削蹄ヲ行ヒ以テ肢蹄ノ保全ヲ圖リ自己体重ヲ負フタメノ「エチルギ」消耗及泌乳ノ減量ヲ防キ依テ天賦ノ能力ヲ發揚セシムルコトニ努メタリ、畜牛結核病ノ検査ハ「ツベルクリン」ノ應用ニヨリ之ヲ行ヒ以テ畜牛衛生上遺憾ナキヲ期セリ

第四章 乳肉加工

一、乳加工

生産牛乳ノ加工ハ主トシテ「バター」製造ニシテ其ノ他種々加工ニ關シテモ研究シツ、アリ、「今バター」製

造ニ關シテ成績ヲ示セバ次ノ如シ

月別	加工牛乳量	生産「バター」量	「バター」一戸生産ニ要スル牛乳量
三月	四〇六、六〇〇	一五、六〇〇	二六、〇
二月	四五六、九〇〇	一六、九四〇	二六、九
一月	七四、九〇〇	二五、二七五	二八、六
十二月	七六一、七〇〇	二四、二六五	三〇、九
十一月	五七、七〇〇	一九、七四〇	二六、二
十月	三七五、六五〇	一九、七一〇	一九、〇
九月	二〇〇、三〇〇	七、八〇五	二五、六
八月	一九〇、二七〇	六、七二七	二八、三
七月	一五、〇一〇	五、三八八	二八、〇
六月	五四九、四五〇	一六、一八〇	三三、九
五月	六八八、七五	二、七三二	三一、七
四月	五七〇、八五五	二、八〇八	二六、六

計 五五九三、六七〇 二〇一、一五〇 二七、八

二、肉加工

本年度ニ於テ豚肉ノ加工試験ニ供用シタルハ「ヨークシャー」種若豚二頭及廢用種牝豚二頭計四頭ニシテ十二月及一月ノ候ニ施行セリ試験豚中前者ハ當場生産仔豚ノ内体格及發育狀況ヲ考査ノ上種豚ニ供用シ能ハサルモノヲ飼養試験シ後者ハ既ニ老齡ニ達シタルヲ以テ廢用處分ヲ行ヒタルモノナリ

供試豚四頭

區分	供試豚	
	第一號(閩)	第二號(牝)
生年月月	昭和四年十月	昭和四年十月
屠殺年月日	昭和五年十二月十三日	昭和五年十二月十五日
生体量	一六、二〇〇 _前	二二、六〇〇 _前
放血後体量	一五、七〇〇	二一、〇〇〇
内臓總量(充)	一、八三二	二、九六〇
頭	一、五三二	一、七二〇
肢	三三七	三六〇
被毛	一五〇	二〇〇
千葉號(牝)	若葉號(牝)	
大正十一年八月	大正十三年三月	
昭和六年一月廿一日	昭和六年一月廿一日	
生体量	二八、三五〇 _前	三〇、五〇〇 _前
放血後体量	二七、〇〇〇	二九、〇〇〇
内臓總量(充)	四、八三三	五、一九〇
頭	二、三〇〇	二、六五〇
肢	四五〇	五二五
被毛	二〇〇	二〇〇

皮	1,400	2,010	2,450
尾	110	325	375
骨	1,110	1,495	2,250
脂	1,850	3,560	1,800
精肉量	1,760	9,660	11,300

製品

ハ	860	1,000	1,000
ソーセージ	5,300	4,000	9,550
猪肉	1	4,600	6,300
ラード	800	1,700	650

第五章 試験事項

一、人工授精試験

牝牛ニシテ若齡ニ拘ラス外觀上體質其ノ他何等認ムヘキ變狀ナキモ妊娠不能ニ陥リ廢牛トナスノ止ムナキニ至リ尠カラサル損失ヲ蒙リ尙遠隔ノ地ヨリ種付希望アルモ牝牛ノ輸送ニ多大ノ經費ヲ要スルヲ以テ優秀ノ牝牛ヲ有シナガラ優秀種牝牛ニ交配スルコト能ハザルハ畜牛改良上甚タ遺憾トスルトコロナルヲ以テ當場ニ於

テハ毎年之ガ人工授精試験研究ヲ繼續セルモ供試牛僅少ナルヲ遺憾トセリ

本年度ニ於テハ當場繁養ノ「スシー」三世號ニ施術セリ其ノ成績ヲ示セバ次ノ如シ

供試牛

供試牛名	種	類	生年月日	毛色	産次	産産	産地
スシー三世號	ホルスタイン種		昭和三年七月十七日	黑白	未産	産當	場

供用種牝牛及種付月日

本手術施行前ニ種付セル供用種牝牛及種付月日次ノ如シ

供用種牝牛名	種	付月日	種付回数	成績
小 鶉 號		昭和五年一月二十五日 三月二十五日 三月二十五日	三回	不妊
第二ダツチランドキング パルトウイリアム號		四月十四日 五月五日	二	不妊
サーインカメー グッチランドアーチス號		八月十七日 八月十六日	二	不妊

以上種付チ行ヒシモ受胎セサルニ依リ當場繁養種牝牛「サーインカメーダツチランドアーチス」號ノ精液ヲ採取シ九月四日人工授精ヲ行ヒ尙九月二十二日更ニ發情セルニ依リ再ビ本術ヲ施行セル結果漸ク受胎セリ

第六章 耕 作

一、農場經營ノ概況

本年度農場經營ノ概況ハ既定方針ニ基キ飼耕作物ノ栽培ヲ行ヒ以テ粗飼料ノ自給ヲ圖レリ飼料作物ノ作付延反別ハ二町七反五畝歩ニシテ外ニ一町一反一畝二十七歩ノ牧草栽培地ヲ有スレドモ當場飼養ノ家畜家禽數ニ比シ牧草地ノ面積稍狭ナルガ故ニ之ガ經營ニ就テハ最モ合理的農業經營ノ根本タル勞費及金肥ノ節約ニ一層留意シ以テ收穫ノ最大ヲ圖レリ即テ農場作業勞務ニハ專ラ常備農手ヲシテ之ニ當ラシメ播種期並ニ收穫時期ノ如キ短時日ニ多數ノ勞力ヲ要スル場合ニハ臨時人夫ヲ僱役シテ作業ノ新涉ヲ圖リ又耕起碎土等ニハ當場繫養ノ改良和種牛ヲ使役シ以テ作業ノ能率増進ト勞力ノ節約ヲ圖リ併テ畜力利用ノ範ヲ示セリ、肥料ハ全部當場生産ノ厩肥ヲ用ヒタリト雖モ各種作物ノ發育狀況ヲ參酌シ各種家畜家禽ノ糞尿ヲ混和シテ堆肥トナシタルモノヲ施用シ或ハ單用スル等施肥期ニ依リ各肥料ノ特効生ヲ利用シ殆ンド金肥ヲ施用セズシテ努メテ生産費ノ輕減ヲ圖ル等集約的經營ヲナシ以テ有畜農業ノ範ヲ示セリ

二、飼耕作物栽培ノ概況

飼料作物ハ粗飼料ノ自給自足及栽培試驗ノ目的ヲ以テ栽培セリト雖モ耕作牧草地ノ狭少ナルガ爲メ耕作牧草ノミニテハ常ニ不足ヲ告ケ野草ヲ以テ補足スルノ狀況ニアリ本年モ約四十貫ノ野生草ヲ購入スルノ外野干草三千五百貫ヲ購入セリ當場牧草ノ主ナル種類ハ「オーチャードグラス」「パールミレット」「レツドクロバ」ニシテ計一町一反一畝二十七歩ノ面積ヲ有スレドモ其中播種後數ケ年ヲ經過シ荒廢甚シキ區割ハ十月下旬更新シ尙前年度更新セル所ハ刈取期遅レ二回ノ刈取ヲ行ヘル結果減收セリ、栽培作物トシテハ表作トシテ青刈大豆、青刈燕麥、埋莖用玉蜀黍、馬齡薯、龍舌菜及少許ノ西瓜ニシテ裏作トシテハ蕪菁、聖護院大根、蕪菁等ヲ栽培セリ而シテ各種作物ノ發育及收量ハ概シテ良好ナリ

(4) 飼料作物栽培成績表

區分	反作別	播種期	反播種量	反當施肥量	收穫期	反收量	收量
青刈大豆	八反	自四月二十日 至四月廿八日	五畝	牛尿 一〇〇荷	自八月二日 至八月十一日	生六〇、〇〇〇	四、八〇、〇〇〇
燕麥	一反	自十月十八日	八畝	牛尿 一〇〇荷	自六月廿三日 至七月三日	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
埋莖用玉蜀黍	一反五畝	自四月二十日 至四月廿二日	五畝	堆肥 七〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	自七月廿六日 至八月一日	一、二〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
馬齡薯	一反	自三月廿六日 至三月廿五日	三十畝	堆肥 五〇〇貫 牛尿 五〇荷	自七月十五日	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
龍舌菜	五畝	自四月十五日	三畝	堆肥 六〇〇貫 牛尿 七〇荷	隨時	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
青刈燕麥	三反	自三月十七日 至三月十五日	一條	牛尿 七〇荷	隨時	一、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
蕪菁	四反	自八月十三日 至八月廿八日	六畝	堆肥 五〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	自十月以	一、二〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇
聖護院根	四反	自八月八日 至八月十二日	一畝	堆肥 五〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	自十月以	二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇
木田	三反	自八月十八日 至九月三日	六畝	堆肥 五〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	自十月以	八〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
蕪菁	用一畝	自九月十日	四畝	堆肥 一五〇荷	自翌春	豫想收量 四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
西瓜	五畝	自四月廿四日	三畝	堆肥 八〇〇貫 牛尿 一〇〇荷	自七月卅日 至九月四日	九〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇

備考 一、育雛用蕪菁ハ翌春使用スル爲メ栽培スルモノニシテ本表ニハ豫想收量ヲ記載セリ
二、蕪菁大根ノ收穫量ハ葉付ノ貫數ヲ示セリ

一、青刈燕麥及龍舌菜ハ少量宛長期間ニ收穫スル爲メ收穫期ヲ隨時トセリ
 □、牧草收穫表

牧草名	面積	一 番刈		二 番刈		三 番刈		反當收量	總收量
		坪當	總量	坪當	總量	坪當	總量		
オーチャードグラス	四反	三、五〇〇	四、二〇〇	二、〇〇〇	二、四〇〇	一、〇〇〇	一、二〇〇	一、九二〇	七、八〇〇
レッドクローバ	二反六畝一步	三、二〇〇	二、四九二	二、〇〇〇	一、五二二	一、五〇〇	一、二六一	二、〇〇八	五、三二七
パールミレット	二十步	五、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	一〇〇,〇〇〇
野生草	四反五畝六步	三、〇〇〇	四、〇六八	一、〇〇〇	一、三五六	七〇〇	九四九	一、二五五	六、三三三
計	一畝二十七步	—	一〇、八六七	—	五、三八〇	—	三、三〇七	—	一九、四九五

備考 一、牧草ハ總テ條播ヲ行ヘリ

一、牧草地荒廢セシタメ毎年更新セシモ尙四反五畝六步ノ未更新地ハ野草繁茂セルヲ以テ之ヲ刈取リ

本年十月二反歩ノ播種ヲ行ヘリ

一、「パールミレット」播種ノ目的ニテ栽培セメ爲メ一番刈取ノミ行ヒ二番生ヒヲ以テ採種シタリ

(八) 農場作業使用人員月別表

月別	使用延人員		摘	要
	常農	臨時男		
四月	二九、〇	六、五	四、五	埋蒔用玉蜀黍、青刈大豆、青刈燕麥、龍舌菜、西瓜、各播種、牧草地手入及施肥

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
三〇、五	三〇、〇	三二、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	二九、〇	三〇、〇	二七、〇	三〇、〇	三五六、五
三、〇	二九、〇	三三、〇	八七、〇	一、〇	—	一九、五	—	—	—	一七、〇	一九七、〇
八七、〇	二、五	三三、五	三七、五	五、五	三、五	—	一〇、〇	—	—	一、〇	二四二、〇
牧草地手入及施肥、牧草刈取、青刈大豆、除草青刈燕麥刈取及施肥中耕	青刈大豆除草並中耕青刈燕麥刈取牧草地施肥及刈取龍舌菜播種中耕並施肥西瓜手入	青刈大豆刈取乾燥牧草地施肥西瓜敷葉整枝及収獲、馬鈴薯収獲埋蒔用玉蜀黍収獲牧草刈取及施肥	燕菁及大根播種牧草施肥及刈取燕菁間引及施肥青刈大豆刈取乾燥及収獲西瓜収獲	燕菁間引及追肥葉苔播種牧草刈取及施肥	燕菁及大根間引並施肥牧草刈取施肥牧草播種燕菁及大根収獲	青刈燕麥播種葉苔移植牧草施肥燕菁及大根収獲	燕菁及大根收納堆肥調製	全	全	全	

(二) 飼料作物栽培勞力調査

飼料作物栽培ハ最モ集約的操作ニ依リ最大ノ收穫ヲ得ヘク毎年之カ作業能力ノ調査ヲ行ヒ以テ生産費ノ節減ニ留意セリ、今各種飼料作物ノ栽培ニ要セン反當所要人員並ニ勞賃ニ對スル單價ヲ示セバ左ノ如シ

種別	反當所要延人員		同上賃金	昭 和 四 年 度	勞賃ニ對スル飼料作物ノ單價	昭 和 五 年 度	
	男	女					
青刈大豆	七、〇	一、五	一〇、〇〇	青刈十貫ニ付	〇、三三	青刈十貫ニ付	〇、二六
青刈燕麥	二、五	二、〇	一七、四五	全	〇、二八	全	〇、二六
埋藪用 玉蜀黍	二、五	二、〇	二九、一五	全	〇、二九	全	〇、二四
馬齡薯	五、〇	七、五	九、六〇	顆物十貫ニ付	〇、四二	顆物十貫ニ付	〇、一九
龍舌菜	三、〇	一、五	四、八〇	青刈十貫ニ付	〇、三三	青刈十貫ニ付	〇、〇六
蕪菁	二、〇	七、〇	一八、五〇	葉付十貫ニ付	〇、二二	葉付十貫ニ付	〇、一八
聖護院大根	一〇、五	五、〇	一六、六五			全	〇、〇八
育雜用 芸苔	三、〇	二、〇	五、一〇	搔葉十貫ニ付	〇、一七	搔葉十貫ニ付	〇、一七

備考 傭人賃金ハ男一日一人ニ付金一圓三十錢女一日一人ニ付金六拾錢ノ割ヲ以テ算出セリ

第七章 指導獎勵

一、質疑應答講習講話

文書ニ依ル質疑應答ハ謹少ナリシモ參觀ト質疑トヲ兼テ來場セルモノ多數ニシテ總テ懇切ニ實地ニ就キ指導及回答ヲ與ヘタリ、講習講話及實地指導ハ縣下十一郡ニ亘リ百三十五日百十一回ニ及ベリ、尙養鶏場報ヲ作製シ當業者ハ勿論一般ニ配付シ以テ養鶏思想ノ普及及進歩向上ニ資セリ

附 録

種 別	以當所要延人員		同上賃金	昭 和 四 年 度	勞賃ニ對スル飼料作物ノ單價	昭 和 五 年 度
	男	女				
青刈大豆	七、〇	一、八	一〇、〇	〇、三三	青刈十貫ニ付	〇、一六六
青刈燕麥	一、五	三、〇	一七、四五	〇、二八二	全	〇、二一六
理 芻 用	二、八	三、〇	二九、一五	〇、二九九	全	〇、二四三
馬 糞 糞	五、〇	七、五	九、六〇	〇、四一	糶物十貫ニ付	〇、一九二
龍 石 糞	三、〇	一、五	四、八〇	〇、二〇三	青刈十貫ニ付	〇、〇九六
蕪 菁	二、〇	七、〇	一八、五〇	〇、二八一	葉付十貫ニ付	〇、一八五
聖護院大根	〇、五	五、〇	一六、六五	—	全	〇、〇八三
育 雛 用	三、〇	三、〇	五、二〇	〇、一七〇	搔葉十貫ニ付	〇、一三七
芸 苜 蓿	三、〇	三、〇	五、二〇	〇、一七〇	搔葉十貫ニ付	〇、一三七

備考 儲人賃金ハ男一日一人ニ付金一圓三十錢女一日一人ニ付金六拾錢ノ割ヲ以テ算出セリ

第七章 指導獎勵

一、質疑應答講習講話

文書ニ依ル質疑應答ハ評少ナリシモ參觀ト質疑トヲ兼テ來場セルモノ多數ニシテ總テ懇切ニ實地ニ就キ指導及回答ヲ與ヘタリ、講習講話及實地指導ハ縣下十一郡ニ亘リ百三十五日百十一回ニ及ビ、尙養鶏場報ヲ作製シ當業者ハ勿論一般ニ配付シ以テ養鶏思想ノ普及及進歩向上ニ資セリ

福井縣立種畜場職制

第一條 種畜場ハ左ノ業務ヲ行フ

- 一、種畜種禽ノ蕃殖並ニ育成ニ關スル事項
- 二、種畜種禽及種卵ノ貸付又ハ配付ニ關スル事項
- 三、種畜ノ種付並ニ牛馬ノ受託育成
- 四、家畜家禽ノ改良蕃殖及育雛ニ關スル試験
- 五、家畜家禽ノ肥臘法ニ關スル試験
- 六、乳製品及肉製品ニ關スル試験
- 七、家畜家禽ノ飼料ニ關スル試験
- 八、畜産ニ關スル講話講習及質問應答ニ關スル事項
- 九、見習生ノ養成ニ關スル事項

第二條 種畜場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師
技手
主事
補助

場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 場長ハ知事ノ命ヲ受ケ場員ヲ指揮監督シ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師及技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第五條 主事補ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ關スル事務ニ從事ス
第六條 本場ノ業務執行ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

福井縣立種畜場處務規程

第一條 場長ハ事務處理ノ爲經伺ノ上場中處務細則ヲ設クルコトヲ得

第二條 場長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得

一、職員ノ配置及事務分掌ニ關スルコト

二、職員ノ歸省看護墓參及轉地療養願ヲ許可シ又ハ除服出務ヲ命スルコト

三、職員ノ縣内出張ヲ命スルコト

四、豫算定額内ニ於テ雇員以下ヲ採用解免スルコト

五、其他輕易ナルコト

第三條 場長ハ職員ノ進退功過ヲ知事ニ具申スルコトヲ得 但シ雇員以下ノ功過ニ付テハ經伺ノ上賞與又

ハ懲戒ヲ行フモノトス

第四條 場長事故アルトキハ上席技手其事務ヲ代理スヘシ

第五條 場長ハ其ノ主管事務ニ付官公署其他ト照會往復ヲナスコトヲ得

第六條 場長縣外ニ出張セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ職員ヲ縣外ニ出張セシメ

ムトスルトキ亦同シ

事急ニシテ前項ノ手續ヲ經ル暇ナキトキハ其ノ事由ヲ開申スヘシ

第七條 場長ハ毎年二月末日迄ニ翌年度試驗調査ノ設計及事業計劃ヲ立テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ設計又ハ計劃ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條 試驗及調査ノ成績ハ其結了ノ都度事務及業務功程報告書ハ年度終了後一箇月内ニ場長ヨリ知事ニ

提出スヘシ

福井縣立種畜場處務細則

第一章 事務分掌

第一條 本場ニ左ノ係ヲ置ク

一、業務係

二、庶務係

第二條 各係ノ分掌事項左ノ如シ

業務係

一、種畜種禽蕃殖並ニ育成ニ關スル事項

二、種畜種禽及種卵ノ貸付又ハ配付ニ關スル事項

三、種付受託育成ニ關スル事項

四、家畜家禽ノ改良蕃殖及育雛試驗ニ關スル事項

五、家畜家禽ノ肥臘法及乳牛能力試驗ニ關スル事項

六、乳製品及肉製品ノ試驗ニ關スル事項

七、家畜家禽ノ飼料試驗ニ關スル事項

八、家畜家禽ノ衛生及畜舎ノ整理ニ關スル事項

- 九、耕作ニ關スル事項
 - 一〇、畜産ニ關スル講習講話及質疑應答ニ關スル事項
 - 一一、練習生ノ養成ニ關スル事項
 - 一二、畜産上特ニ必要ト認メタル事項
- 庶務 係
- 一、場長印及場印保管ニ關スル事項
 - 二、職員備員練習生ノ身分進退服務ニ關スル事項
 - 三、機密ニ關スル事項
 - 四、場内取締ニ關スル事項
 - 五、文書物品ノ收受整理保存ニ關スル事項
 - 六、物品購入、生産物並不用品處分ニ關スル事項
 - 七、經費豫算ニ關スル事項
 - 八、財産管理ニ關スル事項
 - 九、會計整理ニ關スル事項
 - 一〇、他係ニ屬セサル事項

第二章 處務順序

- 第三條 本場ニ到達シタル公文書ハ庶務係ニ於テ之ヲ收受シ文書件名簿ニ記載ノ上場長ノ檢印ヲ受ケ主任者ニ交付スルモノトス但シ親展ノ表記アルモノハ其ノ旨記載シ受信者ニ交付スヘシ
- 第四條 機密文書ハ場長ノ指揮ニ依リ處理スヘシ
- 第五條 事務ハ几テ場長ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス 但シ輕易ナルモノハ首席者若ハ主任者ニ委

- 任スルコトアルヘシ
- 第六條 主任者擔任事務ヲ處理シタル時ハ係員ニ合議ノ上場長ノ決裁ヲ請フヘシ 但シ場長ノ不在ノ場合ハ主任者其ノ代決ヲ爲シ重要事項ハ場長ノ後閱ヲ受クヘシ
- 第七條 生産物ハ其ノ都度數量ヲ一定ノ帳簿ニ記入シ場長ノ檢印ヲ受クヘシ其ノ賣却又ハ配付スヘキモノ亦同シ
- 第八條 文書ノ決裁ヲ得タル時ニハ直ニ庶務係ニ交付シ庶務係ハ之ヲ簿書シ文書件名簿ニ記入シテ發送スヘシ
- 第九條 本場發送文書ハ畜産第何號受文書ニハ畜收第何號ト記入スヘシ
- 第十條 完結シタル文書ハ左ノ二類ニ分チ主任者ニ於テ之ヲ整理シ後日ノ參考ニ便ナラシムヘシ
 - 第一類 永年
 - 第二類 三ヶ年
- 第十一條 文書ノ編纂ハ曆年會計ニ關スル文書ハ會計年度ニ依リ更新スルモノトス

第三章 服務心得

- 第十二條 職員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第十三條 職員疾病又ハ事故アリテ出勤シ能ハサル時ハ其ノ事由ヲ記シテ出勤時間迄ニ届出スヘシ若シ疾病ノ爲メ缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出スヘシ
- 第十四條 職員出務時間中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ外出セムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十五條 忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族死亡ノ月日及續柄ヲ記シテ届出スヘシ
- 第十六條 父母ノ墓參病氣看護若クハ轉地療養ノ爲他行セムトスルトキハ其ノ期間及行先地ヲ明記シテ其ノ

事由ヲ具シ場長ニ願出許可ヲ受クヘシ轉地療養ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
 第十七條 休暇ヲ受ケムトスルトキハ場長ノ承認ヲ受クヘシ
 休日又ハ執務時間外ニ於テ任地ヲ離レムトスルトキハ其ノ行先ヲ明記シ届出スヘシ賜暇中旅行セムトスルトキハ其ノ旅行日數出發歸場ノ期日及行先地ヲ明記シ届出ツヘシ
 第十八條 職員出張シタル時ハ歸場後五日以内ニ復命スヘシ 但シ事ノ輕易ニ屬スルモノハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十九條 職員ハ事務ノ繁閑ニ依リ相互補助スヘシ
 第二十條 職員退出ノ時ハ諸文書ヲ收藏シ所管ノ重要書類ハ宿直員ニ附託スヘシ

第四章 當直心得

第廿一條 當直ヲ分チテ宿直及日直トス
 當直ハ技手又ハ主事補一名ヅ、交替勤務スヘシ
 第廿二條 宿直時間ハ勤務時間終了後ヨリ翌日執務時間ノ開始ニ到ル迄トス日直ハ勤務時間限リトス
 第廿三條 當直中到達シタル文書又ハ物品ハ當直簿ニ記入シ次ノ當直員又ハ庶務係ニ引繼クヘシ 但シ個人又ハ親展ヲ除ク外披見シ至急ト認ムモノ若クハ電報ハ直チニ主任者ニ通報シ處分スヘシ
 第廿四條 當直員ハ時々場内ヲ巡視シテ其ノ取締ヲ爲シ參觀者ノ案内ノ任ニ當ルヘシ
 第廿五條 當直ニ缺勤者アルトキハ逐時次番ヲ以テ勤務シ缺勤者ハ隨時償勤スヘシ
 左ノ場合ニ於テハ當直ヲ免除ス
 一、新任者ハ就職ノ日ヨリ五日間
 二、出張員ハ其ノ前日ヨリ歸場ノ當日迄

第廿六條 場内又ハ附近ニ出火其ノ他非常ノ事故アリタル時ハ當直員ハ直チニ場長及場員ニ急報シ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ
 第廿七條 本則ニ規定ナキモノハ福井縣廳中處務細則ヲ準用ス

種豚種禽種卵配付規程

(昭和五年八月一日 縣告示第三三二號)

第一條 種畜場又ハ委託種禽育成所ニ於テ生産シタル種豚、種禽及種卵ハ本規程ニ依リ有償ヲ以テ之ヲ配付ス
 第二條 配付スヘキ種豚、種禽及種卵ノ種類並其ノ價格ハ毎年之ヲ告示ス
 第三條 種豚、種禽及種卵ノ配付ハ一人ニ付毎年一回トシ種豚ハ二頭以内種禽ハ十羽以内種卵ハ二十個以内トス 但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 種豚、種禽又ハ種卵ノ配付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル別記様式ノ申請書ヲ毎年六月、十二月各末日迄ニ種畜場長ニ差出スヘシ
 一、種豚ニ在リテハ種類、牝牡別配付希望頭數
 二、種禽ニ在リテハ種類、雌雄別配付希望羽數及配付ヲ受ケムトスル場所
 三、種卵ニ在リテハ種類別配付希望個數及配付ヲ受ケムトスル場所
 第五條 種畜場長前條ノ配付ヲ許可シタルトキハ種豚、種禽又ハ種卵ノ種類、性、生年月日、數量、代價配付場所及配付期限ヲ指定シ申請者ニ通知スヘシ
 第六條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ期限内ニ指定場所ニ代金ヲ納付シテ現品ノ引渡ヲ受クヘシ若シ代金ヲ納付セス又ハ現品ヲ受取ラサルトキハ種畜場長ハ配付ノ許可ヲ取消スニトヲ得
 第七條 配付ノ許可ヲ受ケタル者ハ種豚、種禽又ハ種卵ノ輸送ヲ請求スルコトヲ得

前項輸送ニ要スル荷造費及運送費ハ申請者ノ負擔トス
 輸送中ニ生シタル損害ニ付テハ種畜場長ハ其ノ責ニ任セス 但シ相當ノ事情アル場合ニ於テ種畜場長
 ハ亡失又ハ損壞セル種豚種禽又ハ種卵ノ全部又ハ一部ヲ無償補充スルコトヲ得
 第八條 配付ヲ許可シタル後種豚、種禽又ハ種卵ニシテ斃死、廢疾、破壞其他ノ事由ニ依リ配付不能トナ
 リタルトキハ種畜場長ハ直ニ其ノ許可ヲ取消シ既ニ納付シタル代金又ハ輸送費アルトキハ之ヲ返還ス
 ヘシ

第九條 配付ヲ受ケタル者ハ如何ナル理由アルモ代金ノ返還若ハ減額又ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
 第十條 配付種豚ノ血統書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ種畜場長ニ請求スヘシ

第十一條 配付ヲ受ケタル者ハ配付ヲ受ケタル日ヨリ種豚ニ在リテハ二ケ年種禽ニ在リテハ一ケ年飼育ノ義
 務アルモノトス

前項期間内ニ種豚、種禽ヲ賣買、讓渡セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ種畜場長ノ承認ヲ受クヘシ
 斃死若ハ亡失シタルトキ又ハ己ムヲ得サル事由ニ依リ屠殺シタルトキハ十日以内ニ種畜場長ニ届出ツ
 ヘシ

第十二條 種豚、種禽ノ配付ヲ受ケタル者ハ前條第一項ノ期間内ニ於ケル飼育蕃殖ノ狀況ヲ期間満了後一ケ
 月以内ニ種卵ノ配付ヲ受ケタル者ハ其ノ孵化成績ヲ其ノ都度種畜場長ニ報告スヘシ

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式

種豚(種禽、又ハ種卵)配付願
 一、何種牝(雌)又ハ牡(雄)何頭(何羽又ハ何個)

配付場所 種畜場(又ハ何委託種禽育成所)
 右種豚種禽種卵配付規程ヲ遵守可致候條御配付相成度此段相願候也
 年 月 日 住 所 氏 名 印

福井縣立種畜場長宛

福井縣告示第三百九十號

縣立種畜場及委託種禽育成所ニ於テ配付スヘキ種豚種禽種卵ノ種類並其ノ價格左ノ通

昭和五年九月二十一日

- 一、種豚ヨークシャー種
 - イ、生後六十日 一頭ニ付
 - 乙甲 金八圓
 - 乙 金五圓
 - ロ、生後百 日 同
 - 乙甲 金拾五圓
 - 乙 金拾圓
 - ハ、生後百五十日 同
 - 乙甲 金貳拾五圓
 - 乙 金貳拾圓
 - ニ、生後二百日以上 同
 - 乙甲 金五拾圓
 - 乙 金四拾圓
 - 丙 金參拾圓
- 一、種鶏白色レグホン種名古屋種及三河種
 - イ、初生 雛 一羽ニ付
 - 乙甲 金貳拾錢
 - 乙 金參拾五錢
 - ロ、三十日 雛 同
 - 乙甲 金壹圓
 - 乙 金貳圓
 - ハ、六十日 雛 同
 - 乙甲 金貳圓
 - 乙 金壹圓五拾錢
 - ニ、百日 雛 同
 - 乙甲 金壹圓五拾錢
 - 乙 金壹圓

ホ、成 鶏 同 甲 金五圓 乙 金參圓五拾錢 丙 金貳圓五拾錢

一、種卵白色レグホーン種名古屋種及三河種 一箇ニ付 金拾貳錢

種牡牛種付規程

第一條 本規程ハ國有貸付種牡牛及縣立種畜場ニ於テ飼育スル種牡牛ノ種付ニ之ヲ適用ス

第二條 種付ヲ受ケヘキ牝牛ノ資格左ノ如シ

- 一、体格優良體質強健性質善良ナルモノ
- 二、年齡滿十八ヶ月以上
- 三、体高四尺以上

四、遺傳性及傳染性疾病ナキモノ

第三條 種付ハ當該種牡牛ノ飼育場所ニ於テ毎日一回午前八時ヨリ日沒時迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ 但シ止ヲ得スニ回行フ場合ハ少クトモ六時間ノ間隙ヲ置クモノトス

第四條 種付希望者ハ第一號様式ノ申込書ヲ種付ノ當日種牡牛ノ管理者ニ差出シ種付ヲ受ケムトスル牝牛ヲ種付場所ニ牽付クヘシ

不受胎ニ因ル次回以降ノ種付希望者ハ前項ノ申込書ニ前回交付ヲ受ケタル受付證ヲ添付スヘシ

第五條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ納入告知書ニ依リ所定ノ種付料ヲ納付スヘシ 但シ受胎セサルカ爲當初種付日ヨリ七十日以内ニ更ニ種付ヲ爲シタル場合ハ之ヲ徵收セス 不受胎其他事由ノ如何ニ拘ハラヌ既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス

第六條 種付料ハ各種牝牛ニ付知事之ヲ定メ豫メ告示ス

第七條 種付ヲ受ケタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ種付ニ依リ生シタル損害ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 國有貸付種牡牛ノ管理者ハ種付シタル牝牛ノ名稱種類年齡体高毛色特徴種付年月日及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ翌月三日迄ニ當該郡長ニ報告スヘシ

前項報告書ハ種付回数ヲ記載シ第二回以後ニ在リテハ第一回種付ノ日ヨリ七十日以内ニ爲シタルモノト否トヲ區別シ附記スヘシ

第九條 種牡牛ノ管理者ハ種付シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ對シ種付證ヲ交付スヘシ

第十條 種付ヲ爲シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シタル時ハ事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ種付當時ノ種牡牛管理者ニ届出ツヘシ第一號ノ場合ニ在リテハ分娩ノ場所月日性毛色及特徴ヲ記載スヘシ

- 一、分娩シタル時
- 二、分娩前斃死シタル時
- 三、流産シタルトキ

四、分娩前賣却讓與又ハ交換シタルトキ

第十一條 血統書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ノ請求書ニ種付書ヲ添ヘ種付當日ノ管理者ニ提出スヘシ 但シ第十條第一號ノ手續ヲ爲シタル者ニ對シテハ血統書ヲ下付ス

第十二條 種付シタル牝牛及生産セシ牝牛ニ對シテハ検査ヲ行フコトアルヘシ 前項ノ検査場所ハ其ノ都度管理者之ヲ定ム

(第一號様式)

申込書

名 稱	種 類	生 年 月	体 高	毛色及特徴	備 考
-----	-----	-------	-----	-------	-----

右種付致度ニ付御許可相成度種付料ハ御指定ノ期日ニ納付致可候也

年 月 日

住 所

所有者又ハ管理者

(第二號様式)

血統書下付請求書

名 號	性	生 年 月 日	毛色特徴	生 産 ノ 場 所	母 牛 血 統
-----	---	---------	------	-----------	---------

右ハ國有(縣有)何々號ノ種付ニ依リ生産シタル者ニ付血統書御下付相成度種付證相添ヘ請求候也

年 月 日

住 所

所有者又ハ管理者

氏 名

福井縣立種畜場候補種牡牛拂下規程

- 第一條 畜牛ノ改色増殖獎勵ノ爲メ種畜場生産ノ牡牛ニシテ種牡牛ト爲ルヘキ資質アルモノハ畜産組合、畜産組合聯合會、農會又ハ産業組合ニ限リ之ヲ拂下クルモノトス
- 第二條 前條拂下ノ候補種牡牛ニ關スル事項ハ其ノ都度縣報ヲ以テ之ヲ告示ス
- 第三條 候補種牡牛ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ種畜場長ニ願出ツヘシ
- 第四條 候補種牡牛ノ拂下價格ハ評價格ノ二分ノ一乃至三分ノ一トシ知事ノ認可ヲ得テ種畜場長之ヲ定ム
- 第五條 候補種牡牛ノ拂下ノ通知ヲ受ケタルモノハ指定期日內ニ代金ヲ納付シ現物ヲ引取ルヘシ
前項ノ手續ヲ爲サ、ルモノニ對シテハ拂下ヲ取消スコトアルヘシ
- 第六條 候補種牡牛ハ拂下ノ日ヨリ三箇年ハ其區域內ニ於テ種付ニ供用スル義務アルモノトス 但シ特別ノ事由ニ因リ義務年限內ニ於テ之ヲ賣却、交換、讓渡、貸付又ハ屠殺セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ種畜場長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第七條 種畜場長ハ前項ノ承認ヲ爲スニ付知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 拂受人前條ノ義務年限內ニ於テ候補種牡牛ニ付盜難、失踪、斃死、撲殺、又ハ種付使用不能ノ事由ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ種畜場長ニ届出ツヘシ但シ斃死ノ場合ニ在リテハ獸醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添付スヘシ
- 第九條 拂受人前二條ノ義務ヲ果サ、ルトキハ拂下當時ノ評價價格ヨリ拂下價格ヲ控除シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ違約金トシテ徴收スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式

候補種牡牛拂下願

一、何種候補種牡牛

何頭

右種畜場候補種牡牛拂下規程ヲ遵守可仕候間御拂下相成度比段奉願候也

年 月 日

何郡(市)何々組合(會)長 氏 名

福井縣立種畜場長宛

福井縣委託種禽育成所規程

(昭和五年八月一日) 縣告示第三三三號

第一條 家禽ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本規程ニ依リ委託種禽育成所ヲ設ク委託種禽育成所ノ名稱、位置及管理

者氏名ハ之ヲ告示ス

第二條 委託種禽育成所ニ於テハ左ノ事業ヲ行フ

一、種禽、種卵ノ生産配付

二、養鶏ニ關スル調査

第三條 本規程ニ於テ管理者ト稱スルハ委託種禽育成所ノ管理者ヲ謂フ

第四條 管理者ニハ豫算範圍内ニ於テ毎年手當金ヲ交付ス

第五條 委託種禽育成所ノ事業ニ要スル原種禽ハ種畜場ヨリ之ヲ貸付シ斃死又ハ更新ヲ要スル場合ハ之ヲ

補充ス

第六條 管理者ハ原種禽ノ生産シタル卵ノ半數以上ヲ知事ノ告示シタル價格ヲ以テ種卵又ハ種禽トシテ配

付スヘシ

第七條 原種禽ノ受領又ハ返還其ノ他委託種禽育成所ノ事業ニ要スル費用ハ管理者ノ負擔トシ事業ニ伴フ

收入ハ管理者ノ取得トス

第八條 管理者ハ委託種禽育成所ノ事業施行ニ關シテハ種畜場長ノ指示ヲ受クルモノトス

第九條 管理者ハ委託種禽育成所ノ門戸ニ様式第一號ニ依ル標札ヲ掲クヘシ

第十條 縣ノ都合ニ依リ管理者ニ對シ其ノ委ヲ解除スルコトアルモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 管理者ニシテ不都合ノ行爲アリタルトキ又ハ事業ノ成績不良ナルトキハ委託ヲ解除スルコトアル

ヘシ

前項ノ場合ニ於テ飼育中ノ原種禽ハ之ヲ返還セシメ其ノ故意又ハ過失ニ因リ毀傷喪失シタルモノニ付

テハ賠償セシムルコトアルヘシ

第十二條 管理者自己ノ都合ニ依リ其ノ管理ヲ辭退シタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十三條 管理者ハ其ノ事業ニ直接關係ヲ有セサル事項ニ付育成所ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ス

第十四條 管理者ハ様式第二號ニ依ル左ノ帳簿ヲ備ヘ其ノ都度記載スヘシ

一、原種禽臺帳

二、産卵處理簿

第十五條 種禽種卵配付簿 管理者ハ原種禽ニ付罹病、斃死、盜難又ハ傳染病傳播ノ徵アルトキ其ノ他重要ナル事故ヲ生シタ

ルトキハ直ニ種畜場長ニ報告スヘシ

第十六條 前項ノ事故管理者ノ過失ニ基因スト認ムルトキハ其ノ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ 管理者ハ毎月十日迄ニ前月中ニ於ケル事業成績ヲ様式第三號ニ依リ種畜場長ニ報告スヘシ

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式ハ略ス

委託種禽育成所

(昭和五年八月一日
縣告示第三三四號)

七〇

名	稱	位	置	管理者氏名
福井縣足羽委託種禽育成所		足羽郡酒生村荒木新保第二十號三十四番地		五十嵐嘉瑞
全 吉田委託種禽育成所		吉田郡東藤島村上中第二十三號一番地		増田鑑堯
全坂井第一委託種禽育成所		坂井郡荻原村田中々第三十二號一番地		土橋惣太郎
全坂井第二委託種禽育成所		坂井郡細呂木村指中第十六號十七番地		伊藤豊
全大野第一委託種禽育成所		大野郡猪野瀬村片瀬第三十一號六十九番地		平田熙
全大野第二委託種禽育成所		大野郡下庄村中野第六號二十五番地		鈴木庄太郎
全 今立委託種禽育成所		今立郡新横江村東鯖江第四十七號二十番地		今立郡農會
全丹生第一委託種禽育成所		丹生郡吉野村家久第一百十號二十二番地		西岡勇
全丹生第二委託種禽育成所		丹生郡織田村織田第百號八番地		佐々木甚之助
全 南條委託種禽育成所		南條郡南日野村西大道第十八號十八番地		加藤八郎
全 敦賀委託種禽育成所		敦賀郡敦賀町大黒八十四番地		小倉音吉
全 三方委託種禽育成所		三方郡八村三方第二十四號二十五番地		榎本伊三郎

全遠敷第一委託種禽育成所	遠敷郡瓜生村下夕中第三十五號十五番地	岡本勘三郎
全遠敷第二委託種禽育成所	遠敷郡雲濱村西津第六號三十番地	宮前正介
全大飯第一委託種禽育成所	大飯郡加斗村本所第十八號二十三番地	新崎辰之助
全大飯第二委託種禽育成所	大飯郡高濱町若宮第二號三番地	一ノ瀬勝太郎

備員心得

- 第一條 備員ハ職員ノ指揮ヲ受ケ懇切丁寧ヲ旨トシ業務ニ従事スヘシ
- 第二條 備員ハ業務始業時間二十分前ニ出勤シ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第三條 備員ハ業務ノ繁閑ニヨリ互ニ相補ケ現員交代ニ宿直スヘシ
- 第四條 備員ハ日曜祭日ト雖モ欠勤スルコトヲ得ス 但シ業務ニ差支ナキ限りハ各員ニ對シテ毎月一日隨時指定シテ休暇ヲ與フルモノトス
- 第五條 疾病忌引又ハ事故ノ爲缺勤セムトスルトキハ届出ツヘシ疾病ノ爲缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ノ添付ヲ要ス 但シ事故ノ爲缺勤セムトスルトキハ豫メ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 備員ハ各自取扱器具機械ヲ丁寧ニ扱ヒ常ニ清淨ナラシメ毀損亡失シタルトキハ其ノ旨係員ニ報告シ指揮ヲ俟ツヘシ
- 第七條 牧手ハ家畜家禽ノ飼養管理ニ注意シ非常事變及動物ニ異常アルヲ認メタルトキハ直ニ係員ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ但シ急ヲ要スル場合ハ便宜應急處置ヲ施シ直ニ係員ニ報告スヘシ

第八條 農手ハ耕耘及收穫物ノ保存農事ニ關スル一切ニ注意スヘシ
 第九條 小使ハ場内ノ用ヲ辯シ職員退出後ハ事務所内外ヲ掃除シ戸締火氣等ニ注意スヘシ
 第十條 宿直ノ際ハ場内外及畜舎ヲ巡視シ戸締火氣及ヒ家畜家禽ノ状態ニ注意シ苟モ異常ヲ認ムルニ於テハ其旨場員ニ急報スヘシ

第十一條 備員ハ執務時間外ト雖モ場又ハ附近ニ變災アルトキハ速ニ出場スヘシ
 第十二條 牧手農手ノ就業時間左ノ如シ
 但シ場務ノ都合ニ依リテハ幾分ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一、牧手就業及休憩時間表

月別	作業時間	朝食及休憩時間	作業時間	晝食及休憩時間	作業時間
自一月一日至三月十五日	自午前七時三十分至同八時三十分	自午前八時三十分至同九時三十分	自午前九時三十分至同十二時	自午後零時一分至同零時一分	自午後一時一分至同五時
自三月十六日至四月三十日	自同六時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同五時三十分至同一時
五月	自同六時三十分至同七時	自同七時一分至同八時一分	自同八時一分至同十一時一分	自同零時一分至同零時一分	自同六時一分至同一時
六月	自同七時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同六時一分至同一時
七月	自同七時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同六時一分至同一時
八月	自同七時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同六時一分至同一時
九月	自同七時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同六時一分至同一時
十月	自同六時三十分至同八時	自同八時一分至同九時一分	自同九時一分至同十二時一分	自同零時一分至同零時一分	自同五時三十分至同一時

二、農手就業及休憩時間表

月別	始業時間	晝食及休憩時間	終業時間
十一月	自午前八時	自正午十一時至正午十二時	午後五時
十二月	同八時	同上	同上
一月	同七時三十分	自正午十一時至正午十二時	同上
二月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
三月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
四月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
五月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
六月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
七月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
八月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
九月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
十月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
十一月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上
十二月	同上	自正午十一時至正午十二時	同上

種牡牛馬表

一、縣有種牡牛
 大正十二年八月一日
 種牡牛馬表

名	號	種	類	生	年	月	日	産	地	飼	養	者
第二十八サージョハナ ビーターデエマーセーヅ號		ホルスタイン フリーシヤン種		大正	十二年	八月	一日	北海道		福井縣	立種畜場	
インカサードツチランド アーチス號		同		昭和	四年	一月	二十日	千葉縣		福井縣	立種畜場	
デアマンチニー二世號		同		大正	十五年	六月		當場		足羽郡	畜産組合	
ヒルダ三世號		同		同	十五年	七月		當場		今立郡	畜産組合	
第三十サージョハナ ビーターデエマーセーヅ號		同		同	十二年	九月	廿五日	北海道		遠敷郡	畜産組合	
第七十六ヘンドリック號		同		同	八年	一月	廿八日	同上		大飯郡	畜産組合	
第十九大鳳號		改良和種		大正	十年	一月		鳥取縣		福井縣	立種畜場	
第二十二大上號		改良和種		同	十五年	三月		鳥根縣		三方郡	畜産組合	
蓬萊號		同		同	十四年			鳥取縣		遠敷郡	畜産組合	

二、國有貸下種牡牛

三、國有貸下種牡馬

名	號	種	類	生	年	月	日	産	地	飼	養	者
小 鶉	號	ホルスタイン フリーシヤン種		大正	八年	十一月	廿一日	農林省畜 産試験場		吉田郡	畜産組合	
名	號	種	類	年	齡					飼	養	者
月	朗	内國産洋種		十	二	才				丹生郡	畜産組合	
甲	田	同		十		才				大野郡	畜産組合	

四、昭和五年派遣國有種牡馬

名	號	種	類	年	齡	附	記
ウエストランドホッパー		ハクニ		十	七	才	長野種馬所ヨリ派遣
メ ン バ ー		内國産 ノニユース系		十	一	才	

昭和六年十月八日印刷
昭和六年十月十五日發行

福井縣立種畜場

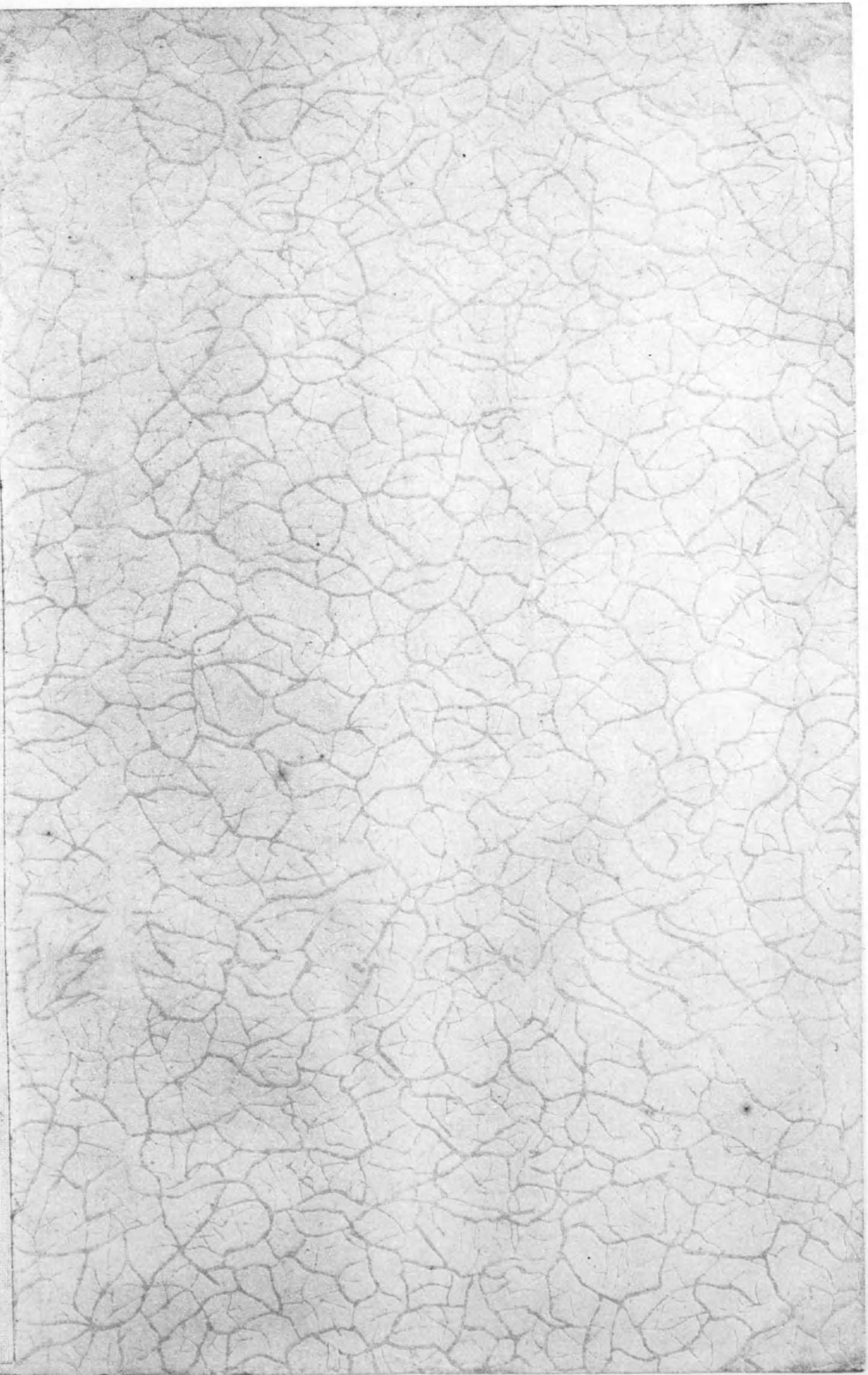
福井市佐佳枝上町八十三

印刷人 湯 貞 吉

福井市佐佳枝上町八十三

印刷所 文好堂印刷所

14.2
1
574



終